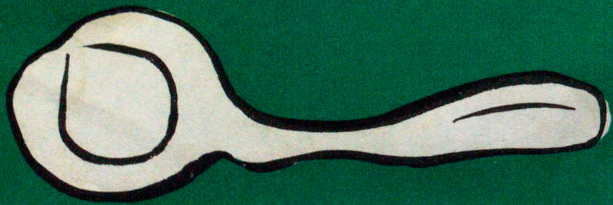
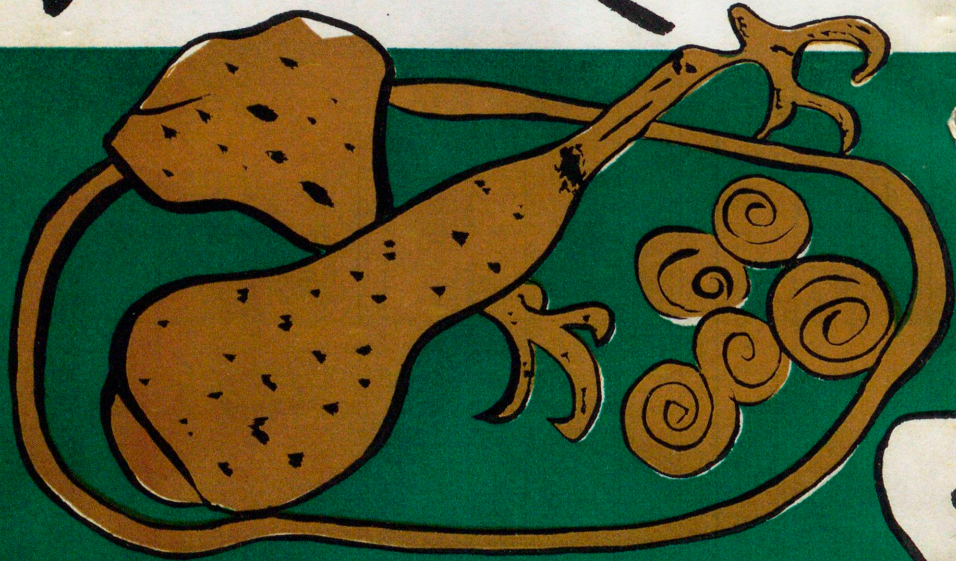
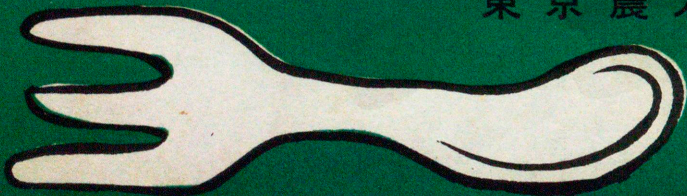


ふしぎ



2

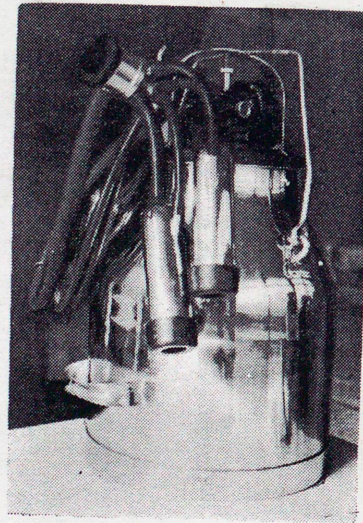
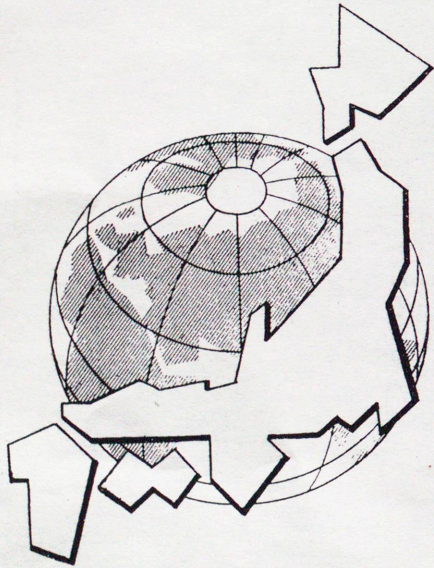
東京農大畜友会



国内に海外に躍進する酪農機械



オリオン



ミルカー
ユニットクーラー
電動攪拌機
ウォーターカップ
スタンション

(カタログ進呈)

総代理店 **三井物産株式会社**

東京都港区芝田村町 1-2
電話 大代表 (211) 0311

製造元 **株式会社 共栄精機製作所**

本社 長野県須坂市亀住町 1157
電話 (須坂) 1230-1-1490

東京営業所 東京都千代田区神田
佐久間町 1-14 (小串ビル)
電話 (251) 0441-9602



ふじみの 第二号 目次

表紙 畜産学科三年 小野竹一

巻頭言

一年をかえり見て

名誉会員寄稿

- 畜産学科の重要さ……………日本配合飼料研究所長 西川哲三郎 (3)
- 畜友会員各位へ……………日本養鶏協会长 伊藤 吉 (4)
- 豚の多頭飼育における問題点……………東京養豚農業協同組合場長 相馬清策 (5)

〔アンケート〕

- ▲第一回畜友会アンケート結果…………… (7)
- ▲座談会「アンケート結果」を見て…………… (10)
- 今年の主な就職状況…………… (12)

◆特集◆ 畜産界に提言する

- 乳業者の立場から……………雪印乳業 小野三郎 (13)
- 畜産行政の立場から……………畜産局 S S 生 (15)
- 飼料業者の立場から……………兼松肥糧株式会社技師 小野修一郎 (17)
- 学生の立場から……………畜産学科三年 小野竹一 (18)



- 北海道へ実習に行つて……………畜 三森井正孝 (22)
- 三宅島見聞録……………畜 三YHグループ (24)
- 山での夢……………畜 三片山 洋 (27)

想

- 無題……………助教 家畜診療所 平山常雄 (30)
- 新卒業生におくる言葉……………飼養研究室 海塩義男 (31)
- チーズの味……………助教授・畜産製造研究室 鬼原新之丞 (32)
- 畜産ブームと畜産学生の心構え……………畜産学科主事 鈴木正三 (33)
- 畜産の夢をのせて……………講師・畜産経営研究室 砂川泰夫 (34)
- 香料……………アンデスハム会社 榎政司 (35)
- 世界平和の理想への実現へ……………畜 四広瀬 健次郎 (36)

随

- ダーウィニズムと今日的課題……………畜 四滝川昌宏 (38)
- 農村の非民主性と経済構造……………畜 三伊沢宏爾 (42)
- 二十世紀ゲート……………畜 四高山昭夫 (44)
- 「個性と云う事」を聞いて思うこと……………畜 三木田英宣 (46)
- アクビ礼賛……………畜 三兵頭 勲 (48)
- 小さな妹……………畜 二千葉多美子 (50)
- 無題……………畜 二S (49)
- 豚でも発憤……………畜 二S (49)
- 論文山羊分泌液の血液型学的研究……………昭和三十五年 優秀卒業論 佐藤理一 (52)
- 全日本獣医畜産学生連盟規約……………畜友会便り (61)
- 畜友会規定……………畜友会規定 (59)
- 三十五年卒論一覽表…………… (56)
- 特別会員住所録…………… (64)

ふじみの

東京農業大学畜産学科畜友会



TRADE-MARK
スモーク印

味と栄養のチャンピオン

Nissin's



美しく
健康を増す
日進の
肉とハムと缶詰

日進のトッキー

日進畜産工業株式会社 電話赤坂(481) 4529・4586
ヨシコヨシハム

—原稿募集—

編集部では、ふじみのの第三号の原稿を募集致しております。より一層充実したものとす
る為にも、名誉会員、特別会員、学生多数の
御協力をお願いします。

記

メ 切 三十八年一月末日

要 項 ○論文、随想、記行文、主張
四〇〇字詰十枚以内

○写真カット、は随意
○表紙図案、三色以内、

宛 名 東京都世田谷区世田谷四の四六〇
東京農業大学畜産学科内畜友会

ふじみの編集委員会行

発行日 昭和三十八年四月十日予定

応募原稿は一切お返し致しません

畜友会 ふじみの

編集委員会

TEL(42)五一七五(代)



巻頭言

畜友会委員長 竺原秀成

全てが春の陽を一杯にうけ、満目に躍動を感じる今日、茲に「ふじみの」第二号を発行する運びとなったことは、誠に喜ばしいことである。

昨春茂原より本校へ移転併合されて以来、はや一年が経ち、又、一昨年我々の総力を結集して発足して以来、今日まで順調な歩みをみせて来た我畜友会も、更に大きく発展させたいと願っている。

近年の科学技術の発達はめざましく、その中にある農業情勢の変化と共に、畜産も年々発達し且つ重要な位置を占めつつあり、安閑としてみでは居られない。

我々はそうした時代の要請にも答える為、この短い学園生活の場を豊富で、より有意義なものにする為、小さな社会に籠城することなく、目的を一つにもった同志と教職員及び先輩諸氏との交流を密にし、互に親睦を深め、所期の目的を達成させるよう努めることは我々に与えられた責ムであり、同時に畜友会の目的も此処にあると思います。

お互に、短い学生生活の意義を深め、思いついた深いものとし、いたずらに団体という大きな流れに無意識に押されてしまうことなく、更に畜友会に発展させ活気あふれるものになりたいと思います。尚、誌名の「ふじみの」とは、昭和二十四年に千葉県茂原市の「ふじみの」の他に誕生した多くの先輩を畜産界に送り出した。本学科発祥の地名をとりその思い出としたものです。

一年をかえり見て

畜産学科長
農学博士 平 林 忠

ふじみの里と別れて東都桜ヶ丘の仮校舎へ移り住んで早くも一ケ年を経過した。かえり見れば多難な年であり、不便なことであった。

七十周年記念式典の延期や三浦前学長の大学葬と予期せぬことで、諸君にとっては大きなショックであったろう。三十五年前、初代学長横井先生の大学葬に参列した私は当時学生として、大きなショックを受けた一人であったから、諸君の心境を察することが出来る。

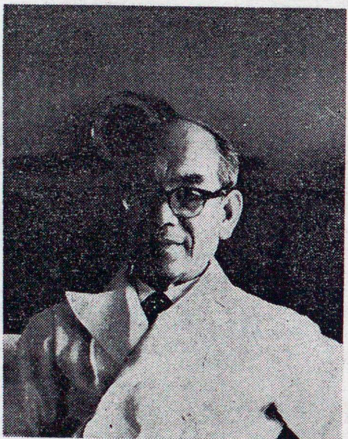
その間にあって、会員諸君はよく協力し不便をしのび、本会の年次計画を次々に実行した。五月一日のクルーゲル博士の講演を初め数回に亘る講演会やシンポジウムの開催によって知識の啓蒙をはかってきた。またヒナ雌雄鑑別競技大会や日本畜産学会関東支部大会の開催にあたってその運営に協力した幹事諸君の努力活躍振りは学の内外に広くしれ亘って高く評価されている。まことに慶ばしいことと感謝している。

いよいよ待望の三千六百坪の農学大センターが落成する。また厚木農場の鍬入式も近く迫っている。昭和三十七年度には旧に倍する学習や研究が出来るのを予告することが出来て同慶に存じる次第であるが、更に内容の充実と発展のために邁進したいものである。

名誉会員寄稿

畜産学科の重要さ

農学博士 西川 哲三郎



今さらいうまでもないが、我国の畜産は農業界に於ける最大ホープで、全産業から見て、所謂「陽のあたる」産業である。最近、最も伸びたのが養豚であって、昨年二月の飼養頭数二六〇万頭が、十一月には四〇九万頭に及んだ。次は養鶏で、昨年二月七、一九〇万羽、前年比三一六%の増加である。伸びる

べくして伸び悩んでいるのが乳牛で、同年同月八八五千頭、一ケ年の伸びは七・五%であった。従って畜産物の消費も累年増加し、豚肉の如きは昭和三十年一世帯当りの消費量二六二瓦であったのが、四年後には六五%増、四二〇瓦に達している。恐らく、昨年はさらに躍進的のびたであろう。鶏卵の一昨年の生産が九五億六千万個、昨年はこの一五%以上は増加している筈であるから、昨年十月の推定我国総人口九、四二八万人が、年間一六個以上を消費したことになる。牛乳の生産は昨年で二、一一五万トン、前年より一二%増であるが、乳製品が不定で海外より輸入していることは御承知の通りである。

以上の外、牛肉、羊肉、鶏肉等も逐年生産も消費も増加しており、我が国に占めるこれ等畜産物の価格は、昭和三十四年度四・八%

であったのが、昭和三十四年には五・五%、翌三十五年度は五・八%と漸増している。翻って、これを列国と比較してみることは

我国畜産業の将来性を判断する上に最もよい材料であると思惟するが、三十一ヶ国中、牛乳、三〇位で、スイスの二十二分の一、インド、南阿連邦の約半分、卵、二〇位でセイロン、ギリシャ並びにイタリー、ウルグワイの約半分、アメリカの六分の一、鶏肉、二十八位で、アメリカ、カナダの三十五分の一、豚肉、二十六位でデンマークの四十六分の一、アメリカの三十四分の一、牛肉、二十八位でアルゼンチンの八十一分の一、アメリカの三十四分の一、バター・チーズに至っては皆壤も常ならざる相異である。

さて、その飼料であるが、筆者の関係している配合飼料を見ても、昨年度の推定消費高

は三八〇万トンといわれ、三〇年度、五二万トンと比較すると、その生長率の大きなのに一驚するであろう。また、その内容の進歩も目覚ましきものがあり、アメリカを例にとると、プロイラーは一九三〇年代には三ポンドに先長させるのに十五ポンドの飼料と、一四一―一六週の日時を要したのが、今日では七ポンドの飼料で九週間、然もはるかに良質の肉が得られ、最も安価な食品となった、卵も同様で、一九三〇年代に一〇個の卵を得るのに六ポンドの飼料を要したが、今日では大体

二・五ポンドでこと足るようになった。我国の優秀な配合飼料も大体これ位の利用率になっている。その他、牛・豚肉・牛乳に於ても略同様である。

かくの如く、今後益々我国畜産とその関連産業は発展するであろうし、また発展させねばならない。家畜の品種改良、飼養管理、環境等の改善と、飼料の研究は、喫緊な問題である。然るに、こうした問題に取組む、畜産技術者は現在非常に少い。昨年「学術会議」から、日本畜産学会に、今後の畜産教育につ

いての諮問があつて、筆者も委員の一人として討議したが、現在、獣医以外の畜産技術者で大学卒業程度のもの総数は、凡そ七千名と推定されているが、十年後には少くも二万二千名の高級技術者は必要となる。従つて、現在の各大学畜産学科をもっと強化し、その内容も充実しなければならぬ。幸に諸君はこの国家要請の最も大なる畜産を志し、歴史と伝統を誇る、我農大に学ばれるのであるから、学業に、実習に、一段と精進せらるるよう切望してやまない。

畜友会員各位へ

日本養鶏協会々長

伊藤 帷吉



畜産学科の学生諸君で、畜友会を結成して色々と畜産に関する研究をすると同時に、学生間の親睦をはかるのだから、我々も何かの名で参加するようにと委員の方から相談があった。そのことは非常によいことで、昔からの農大精神で、学生も自からの手で、問題を解決してゆくことは、大賛成である。然し従来学生と、先輩とで作つておる常盤松畜産会

とは、どんな関係にあるのかと、質問したら、その学生は常盤松畜産会の存在をよく知らぬとの返事であつた、平林君を始めとする先生方がこの会に何等かの役割をしておるとのこととを聞くに及んで、一体先生方はどんな考えでおられるのか？とつまらぬことまで考えた、この種の会合は勿論学生の自主的に運営すべきものであるが、少なくとも学内に於ての活動

に対しては、先生方がよくアドバイスするのが当然と考られる。この点学生諸君と先生方でよく相談するのがよいのではあるまいか。それは兎も角として、学生諸君が、自からの力により、畜産学の研究に志ざすことは、大いによいことで、殊に現在の農大の様に、実際の動物に接する機会が少なくなった学生諸君は、実にお気の毒でならぬのである。畜産を専門に学んだ、農学士さんが、社会に出て、牛や鶏の取扱方もよく出来ぬようでは困りもです。畜産とは我が言うまでもなく、家畜家畜による産業であつて、基礎的学問が大切であると共に、産業としての畜産の在り方で頭に入れておかねばならぬのである。今後

に置かれるもので、諸君が将来社会に出て、これから指導の立場に立たれる場合、教室内に於けるノートの虫だけでは、指導者としての資格とはならぬ、農大出身者は一部特別のものだけが、将来学者として進むので、大部分の諸君は、一般経済社会に出て、活動することと思われ。その際、学生時代に実際に動物に接したことが少ないようでは、物の役に立たぬのである。諸君はこの会を充分に活用し、広い視野に立つて、将来役に立つところの基礎を、学生時代から身に付け、何か一つの特徴を持つて社会に出るよう心掛けることが必要で、実社会は学生時代のような、生テヨロイものではないのである。人生行路に立つて堂々と、それを切り開いて行くようにせ

ねばならぬ。繰り返すようであるが、学窓を出るまでには、必ず何か一つの技術を身につけて、この問題に関する限りは、何人の前にも出て、自信を以て処理出来るようになることを念願するところも、またこの点にあることを充分承知し置くことが必要である。従つてこの会に属する学生諸君は、広く学外にまで飛出し、よく畜産界の状況を認識するよう極力努力することが必要ではあるまいか。諸君の活動には、畜産先輩が出来るだけの便宜を計るであろうし、またそうさせるように諸君も努力する必要がある。

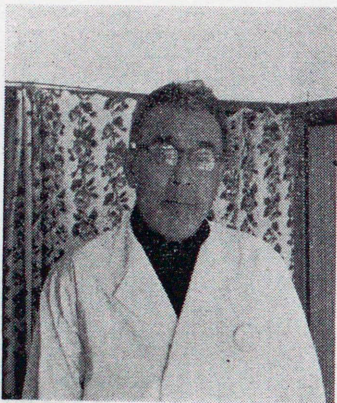
豚の多頭飼育における問題点

東京養豚農業協
同組合農場長

相場 清策

現在私のいる東京養豚農業協同組合は組合員十数人から組織されている組合で、各組合員は親子二代あるいは三代にわたり養豚経営を行つて来たいわば養豚経営のベテランばかり

りの集まりである。現在同養豚場には五千余頭の育成豚、繁殖豚を飼育しており、今年中にも年間常時一万頭を飼育する予定で、豚舎の増築に急いでいる所である。所でこの様に



アンケート

○第1回畜友会アンケート結果

○座談会畜友会アンケートを見て、

言うまでもなく、畜友会は、それを構成する会員のものであり、その利益の追求を最大の目的とするものにはあるが、多くの他団体でもそうである様に、会の主体的な存在としての会員と、その会の運営をはかる役員との間には、何か一種の隔りがあり、会の発展の妨げとなっていることは、否定出来ぬであろう。ここで役員が会員の考え方を少しでも良く知り、また役員の熱意を会員に理解してもらおうという意味で、今回のアンケートは行なわれ、その意義も深いものであろう。

この調査は昭和三十七年一月二十二日より二十七日迄に、畜産学科生を対象として行なわれ、

| | |
|-----|------|
| 一学年 | 六五名 |
| 二学年 | 五七名 |
| 三学年 | 四一名 |
| 四学年 | 一二名 |
| 合計 | 一七五名 |

の回答に基づいて、ここに報告の段階に致った。ここには、その回答の集計と共に、後日畜友会本部で行なわれた、顧問、鈴木正三教授をお迎えしての、役員、クラス代表との座談会出席二十名の各意見をもって、まとめとした。

特殊な組合からなる多頭飼育という点からしても当然解決しなくてはならない諸問題が生じてくる。ここでその諸問題を提起して諸君の将来の参考になれば幸いである。

まず第一の問題点は仔豚の導入である。前にも述べたように同養豚場は一年に三万頭の豚を屠場に出す予定で、すなわち四ヶ月週期の飼育を行い、約七十キロの豚を屠場に出荷している仕組になっていて、そこに当然良い仔豚をしかも安く買入れなければならぬ問題が起り、と云って如何に安くても七〇キロまで飼育するのに五ヶ月も六ヶ月も日数を用いては結局赤字になって来る。従って多頭飼育に於いて、如何にして良い安い豚を買入れられるかも重要な点であるといわねばなるまい。

次に問題になるのが飼料に関しての問題である。現在は五、六千頭の頭数なので全購連で委託飼料を作り与えているが、これが年間三万頭の豚を飼育すると、委託では間に合わず又経費も高くつき、小さい飼料工場を自分の所で作る方が全体として、安くつく、其の点を解決する為に将来工場を作る計画を立てている。もう一つ飼料に関係して、多頭飼育になると当然濃厚飼料一本化になり、自然に青物が欠乏し、繁殖豚にも色々の障害を起す

ので此の点も考慮しなければいけない問題だと思ふ。

次の問題点はこれは一番重要な事であるかも知れない。それは糞尿処理の問題である。同養豚場は未だこの糞尿処理場が出来ておらない状態であり、この問題は豚舎を建てる時一番最初に考えなくてはならない重要な事である。同養豚場では現在溜池を作り救場を凌いでいるが、周囲は未だ水田が沢山あり、台風等が来ると糞尿が池から田に流れ出る事もあり水田に被害を与える事が再々ある。豚に限らず家畜の糞尿処理の問題は将来の重要な課題となるであろう。

次に問題となるのが病豚の早期発見の問題である。多頭飼育になると当然豚舎の構造も異なり、一つの豚房に十数頭とまとめて飼育する事になり、飼料は自動給餌器で一日中飼育を与えるので、その場合に病気の豚を見出す事が非常に困難で、人目につく頃には手遅れの状態になる場合が多く、あげくはその豚房全体にその病気が伝染する恐れも生じてくるので、病豚の早期発見も多頭飼育に於ける考慮しなくてはならない問題であろう。

次に使用人の賃金の問題である。当然経営者の立場に立って考えれば、安い賃金で人を

使う事が重要である。しかし東京養豚等の都会に於ける経営は地方に於ける経営と違い安い賃金で人を使う事は困難であり、特にこの様な職業に従事する人間が最近少なくなり、思う様に人が集つて来ない場合もあるので自然に高い賃金を支払わなければならない状態になる。又一人の人が見る事の出来る頭数は繁殖豚で一日四十頭前後で、まして年間何万頭もの豚を飼育する事になると、当然従業員の数も考慮される様にならなくてはならず其の意味で豚舎の構造等が考えられ、一番能率の良い設計が立てられる事が必要であろう以上多頭飼育に於ける諸問題を提起してみたいが、二、三書き足らぬ点もあつたが、諸君が将来多頭飼育を行う上に少しでも参考になるならば幸いと思ふ。

(以上の原稿は先生自筆のものでなく、編集委員との対談に於て要点をまとめたものである)

略歴

一、西川哲三郎、大正十四年農芸化学卒業、前農業技術研究所、畜産化学部、現在日本配合飼料研究所長。

一、伊藤雅吉、明治四十四年高農卒業、現在日本養鶏協会会長。

一、相馬清策、大正十三年本科卒業、前茂原分校養豚担当、現在東京養豚農業協同組合農場長。

問一 あなたは現状の畜産学科に満足していますか。

- (一) 満足である 六・六
- (二) 不満足である 七九・六
- (三) どちらでもない 一三・八

問二 不満の方はその原因が次の中にありますか。

- (一) 授業内容 三九・〇
- (二) 施設、備品 五三・〇
- (三) 実験、実習 三六・四
- (四) 研究室 二三・五
- (五) 雰囲気 一四・〇
- (六) その他 〇・五

問三 特に授業内容については

- A どの様に感じていますか。 満足すべき授業内容であると お考えですか。
- (一) はい 〇・六
- (二) いいえ 六六・六
- (三) どちらとも言えぬ 三二・〇
- (四) その他 〇・二

- B 不満足な方は、その原因は どこにあるとお考えでしょうか。

- (一) 講義(内容教授の態度を含む) 四二・〇
- (二) 学生の態度 二七・〇
- (三) 学校の方針 三二・〇
- (四) その他 〇・四
- 不明 一七・〇

C あなたは一般教養科目のあり方をどの様にお考えでしょう。

- (一) 現状のままでよい 三・九〇
- (二) もっと授業時間を多くすべきだ 一五・〇
- (三) 専門科目を多くし教養科目を少なく 二四・〇
- (四) わからない 四・〇
- (五) その他 五・〇
- 不明 一三・〇

問四 施設、備品について

A あなたは現在の畜産学科の設備をどう思いますか。

- (一) 充分である 〇・
- (二) 不足している 九二・
- (三) 適当である 四・
- 不明 四・

B 不足と答えた方は、どの場合最も

- (一) 授業時間 一九・〇
- (二) 実験実習 六六・〇
- (三) 研究室 四一・〇
- (四) その他 六・〇

問五 農場について

A あなたは現在畜産学科の農場がどのような状態にあるかを御存知ですか。

- (一) 知っている 二七・〇
- (二) 少しは知っている 四三・〇
- (三) 知らない 二八・〇
- 不明 二・

B 前問で(三)と答えた方は、なぜよく知らないのですか、農場について

- (一) 知らされないので 六四・〇
- (二) 関心がない 一九・〇
- (三) その他 一五・〇
- 不明 二・

C 農場問題に関心をお持ちの方は、問題解決にはどのような態度をとったら良いと思うか。

- (一) 畜友会が現状を調査し学生によく報告をし、他学科にも呼びかけ、解決

- (一) 我々が動いても早く解決させることにはならないから、学校にまかせ、それに協力する 一一・〇
- (二) その他 一一・〇
- 不明 一四・〇

問六 研究室について

A あなたは現在研究室にお入りですか。

- (一) 入っている 三九・〇
- (二) 入っていない 四八・〇
- 不明 一三・〇

B 入っていない方は、その理由

- 研究室の内容がつかめない
- 研究室の方針がはっきりしていない
- 運動部その他のクラブと両立できないから
- 研究室の活動が不活発である
- 設備の充実
- 研究室内の充実
- 卒論のための研究室ではいけない
- 研究室の拡充と学生数の問題
- 入室者に強制的に実験をやらせる

〔この六Cに対する解答の傾向として〕設備の拡充はもちろんであるが、それ以上

に研究室活動の不活発を言うものが高学年に比較的多くあった。

○ 研究室の運営に不満
 ○ 一年からでは早いと思うので、
 「この六Bの問題に対する解答の一般的な傾向として」

研究室の内容、その実状について知らず研究室の選択に迷っている人が多い。研究室に対する不信任があるため入る気がしない、との意見が多くみられた。
 C 入っている方で、現在の研究室に最も望むこと。

〔注〕問七については省略致しました。

問八 あなたは我国の畜産界の将来についてどの様なお考えをお持ちですか。

- (一) 大いに発展する 三〇・〇
- (二) 良い方法がとられれば 発展する 四四・〇
- (三) 現状は維持する 六・〇
- (四) 各種社会状況の影響で 一層苦しくなる 一・〇
- (五) 発展はとて 〇

- (一) 望めない 〇・〇
- (二) その他 一・〇
- (三) と答えたもの
- 食生活の向上と生活の安定
- 畜産物製品の未開発
- 人口増加と食生活改善
- 動物性蛋白質の必要性
- 政府の方針もその様になってきたので

〔(一)と答えた理由の一般的傾向として〕食生活の改善が進み生活が安定してきたことが、大いに発展する最大の原因としていえる様である。
 (二)と答えたもの
 ○ 国の政策いかんによる
 ○ 輸入品に対抗出来れば良い
 ○ 生産体制の確立が出来れば良い
 ○ 畜産はおこなわれているからこれから構造の改善をすればよい
 (三)と答えた理由の一般的傾向として〕

国、諸官庁、大会社の政策いかんによって発展する、又畜産そのものが初期段階にあるので、伸ばそうと思えば伸びる、技術その他の生産手段の遅れをとりもどせばなどが多く占めていた。

- (二)と答えたもの
- 貿易自由化になると苦しくなる。
- 中間搾取、労働と収益のアンバランスによる経営困難
- 一応安定したから、現状維持する。

問九 現在の畜友会の活動、あなたが畜友会に最も望まれることをお書き下さい。今後の活動の参考にいたします。

〔九に対する意見〕
 会員との連絡、報道を密にし、更に会員の方に對する認識を深めさせる旨の意見が多かった。次いで会の活発化、その内容として講演会の開催、見学旅行を行ない、農場問題解決のために更に活動することを要請する声が多数あらわれた。尙少数であるが学生間が討論会、諸団体との交流を望む意見も注目すべきである。

問十 あなたがいま、畜産学科に最も望まれることをお書き下さい。

〔十に対する意見〕
 最も多い意見は設備の拡張と充実を計ることを要望するものである。その中でも特に

実験器具の不足、家畜の不足、農場を我々の手にという訴えが目立って多くあった。次いで学生の人数、実習時間、内容の不足教授陣の不足、卒業にすぐ役立つ所謂技術を養成するような授業内容にすること、その他の講座の充実を計ること等を望む声が多くあった。

座談会／畜友会アンケートを見て／より

二月七日 於畜友会室

出席

畜友会顧問

鈴木正三 教授

同 役員

十三名

クラス代表

七名

問一 日本獣医畜産連盟加盟をどの様にお考えですか。

- (一) 加盟すべきである 四二・〇
- (二) 加盟すべきでない 六・〇
- (三) 時期が早過ぎる 四・〇
- (四) 分らない 二・〇
- (五) その他の意見 八・〇
- 不明 一九・〇

〔日本獣医畜産連盟加盟に対する意見〕

- 連盟に入り、視野を広くせよ。
- 畜産界交流のために入れ。
- このような団体の必要な時がやってくる。
- 畜産界からおくれないためにも加入せよ。
- 畜友会で一応の案を出せ。

先ず、役員よりアンケートの整理の結果が報告され、その後先生と学生、学生と学生との間に、活発な意見の交換があった。

鈴木 卒直に言えば、先生方にも若干反省すべき点があるかも知れない。学生の態度の悪さ、数の多さのみを訴えて、熱意を示さぬ人も居ると聞いている。自分の職責をはたしてから、学生に、強いるべきだ。一方、学生の誠意、熱意も不足していることも事実で、大いに目覚めてほしい。どちらにも互に熱意を示してほしい。

一、アンケートの一三の質問について。

二、実験実習について

A 私立大学の畜産学科として、本学は設備や内容に於いて、どの程度か。
鈴木教授 このアンケートの結果に出ている様に、不満足者が多いのは、当然であって、現段階に満足しては、発展がない。また農大は私大のうち、良い方である。(他の学校の例を挙げ説明。)
A 講義内容の不満を訴えるものが、四十二%もいるが、その解釈は、どうすべきか。又、学生の側にも、反省すべき点が多くあると思うが、

B 今後の実習方法は、どうなるか。
鈴木 現在四十名定員としての設備であるので、当然不足である。しかし、新築中の総合実験室が出来る様に、着々と整いつつあるので、やがて満足すべき授業を受けることが出来るだろう。

C 専門科目の先生は、その専門以外の話題に欠け、授業に面白味がない様だ。

務怠慢であって、学生から声をもっと盛上げ、先生と共に当局に抗議したらよい畜産学科全体の問題だから。

D 問題となるのは、先生方の時間不足ではないか。多くの仕事をもち、本などを読む暇がないと思う。

鈴木 今年の実習は、茂原で行なうことになるだろうが、最近になり、遅くはあるが解決に近づいている。

E 先生の事務的な仕事が多すぎる。

F 下一年の草取り実習は不満足だが、その性質、実習内容からいって、いたしかたないことだ。

A 施設の不足は、我々がもっと良く利用すれば、不足なりに補える。専門的な事からの他に、大学生として必要な教養やものの見方などを身につけ得る様な講座を、もうけてもらいたい。

G 学外での実習を、単位として認めないか。
鈴木 一部は学外実習を単位として認めてよいと思うが、来年度からのコース制がとれば、その可能性はあると思う。

C 各自の読書などを通じて、学ぶべきであって、他から与えられるものではない。

A 設備の不足より、その内容が充実していないことに不満をもつ人が多い。
鈴木 研究室の活動も、自主性に基づくもので、入ったからには、自分で道を開くべきであらう。

A 講座等で勉強することは、それなりの意義がある。

E 現在の研究室で、自分のやりたいことは大抵出来るが、空間的に狭い。

三、農場問題について

B 先生方は、その時々農場の現状を、知らせてほしい。我々の質問に対しての答えは、要領を得ないことがある。

A 単なるムードで、畜産が、伸びるといふ様な考え方で、あぶない。

E 農場の計画などで、決定しないものがあると聞いているが、これは学校側の職

鈴木 私各室より提出されたものを集計しそれを生のまま当局へ出し、それが最終

D 多くの人が伸びると言っているのは、畜産界全体か即ち、大きな会社は伸びると言うことで、一般の農家や畜産家が富むということではない様だ。

A この様に畜産が発展するというのに、卒業後、畜産関係の会社に就職する人が少ないのは、どういうことだろう。
E 今後の農業は、その需要は増加するが農基法で示される様に、機械代、合理化の方向に進み、その仕事に従来する人は少なくなり、結局、卒業生が、畜産方面に進まぬのも、このためだろう。

鈴木 昔からの糞畜などという考え方の畜産でなく、畜産の発展が農業の発展となる様な考え方でなければ古い。
六、就職の方面について
A 回答した人のうち、少数しかこの間に答えていないのは残念に思う。
E このアンケートの取り方にも、その原因があるのではないか。

この結果によると、加工方面への就職希望者が多いが、研究室の予算の配分はどの様になっているのか。

鈴木 私各室より提出されたものを集計しそれを生のまま当局へ出し、それが最終

- 的に決定されて戻って来る。
- 七、畜友会に望むこと
- E アンケーター等により、学生の考え方をとらえることは有意義である。
- I 自分達の選んだ役員に対し、その後、責任をもたない学生が多い。反省すべき点と考えている。
- 八、畜産学科に望むこと
- I 先生により、学生を一定のイメージにあってはめ、あつかいやすくすることがあるが……
- 鈴 学生に望むこととして、学生は先生とのつながりを密接にして、疑問な点は良く話し合い、教室では得られぬものを握む様にしてほしい。
- D 畜友会だけ、或いは学科だけで解決する問題は限られてくる。両者の結びつきを強くして、当局や他学科にも、声を聞いてもらおう。
- 九、獣医畜産連盟について
- A この問題に対する学生の認識が不足。
- H 連盟の活動が不明確で、規約上の欠陥もあり、現状では、静観が良い。
- A この回答の結果にも表われている様に畜友会で、ある一つの線を出す必要がある。

と考える。

十、全体的な面での反省など
アンケートをとる場合の技術的な未熟さが指摘され、最後に学生の熱ある態度と自覚を望む声が強く述べられ、教授、学生間の意見、意志の交流を希望し、この会を終了した。



今年の主な就職状況

| | | | |
|-------|--------------|-------|-------------|
| 原田 武彦 | キューピーマヨネーズKK | 林 和正 | 株式会社国分商店 |
| 氏原 信夫 | (〃) | 藤岡 昌芳 | 東莫商事株式会社 |
| 池田昭次郎 | 千葉飼料株式会社 | 井石 安文 | (〃) |
| 武内 正明 | 田村製菓株式会社 | 萩原 保 | 日冷農産工業株式会社 |
| 吉田 順治 | (〃) | 千葉 宏夫 | 中部飼料株式会社 |
| 井伊 真次 | 高梨乳業株式会社 | 般越 等 | 武田科学飼料株式会社 |
| 木村 忠道 | 東京養豚組合 | 池田 孝誠 | 田村製菓株式会社 |
| 鈴木 長次 | 兵庫乳業株式会社 | 石井年郎昭 | 和産業株式会社 |
| 石黒 俊夫 | 小岩井農場 | 川上 勇辰 | アミノ飼料株式会社 |
| 小林真十郎 | (〃) | 前田 勝 | 中部飼料株式会社 |
| | | 内藤 稔彦 | 日本農産工業株式会社 |
| | | 大川 健次 | 東大畜産物利用研究室 |
| | | 大成 忠吉 | 河田飼料株式会社 |
| | | 渋谷 留雄 | 山平商店 |
| | | 田原 孝二 | 大同畜産株式会社 |
| | | 武井 弘道 | 河田飼料株式会社 |
| | | 上田 貫一 | 小知和冷凍食品株式会社 |
| | | 駒沢 昭男 | 明治飼料株式会社 |
| | | 菊地 一夫 | 協同飼料株式会社 |
| | | 益田 昇 | 株式会社不二家 |
| | | 黒坂 明弘 | 東京保証牛乳株式会社 |
| | | 人見 隆 | 小知和冷凍食品株式会社 |
| | | 紋谷 和宏 | 大阪保証牛乳株式会社 |
| | | 吉田 武憲 | 兼松肥糧株式会社 |

畜産界に提言する

我々畜友会は、ふじみの第二号を通じ、現在、あるいは未来の正しい畜産界の進むべき道を会員諸君に正しく理解してもらうために、ここに先輩、在校生から送られた「特集・畜産界に提言する」を載せた。

- 1 乳業者の立場から 雪印乳業 小野 三郎
- 2 畜産行政の立場から 畜産局 S S 生
- 3 飼料業者の立場から 兼松肥糧株式会社 小野修一郎
- 4 学生の立場から 畜産三年 小野竹一

畜産界に提言する

— 乳業者の立場から —

野 三 郎

国際情勢そしてまた国内経済のめまぐるしい動きのうちに、昭和三十一年の新しい年をむかえた。昨年六月農業基本法が制定され、日本農業の方向づけが一応できたが、その基本的な考え方は、農業に新しい息吹を与え、他の産業と肩をならべる位置へ向上させ、その格差をなくすることにつきよう。

いま、この線にそって農業構造改善事業、そして農畜産物の主産地形成が農業政策の中心となっているが、これにともない畜産もまた一つの新しい局面をむかえることになったといえよう。すなわち畜産物価格安定法の立法化によって「畜産振興事業団」が発足し、今後の畜産物の価格安定をはかると同時に、畜産物の需給の調整を行なうということでその動向が注目されている。また、流通機構や取引の改善面では「酪農会議」「牛乳需給会議」を中央、都道府県にもうけて、いままで何かと問題を起していた牛乳取引にまず焦点をおき、これを積極的に改善しようという動きがでてきた。

このように畜産政策が従来の殻を脱却し、現実在即した前むきの姿勢となってきたのは喜ばしいが、これで問題が解決点に至ったとは考えられないのが現状だろう。畜産物とくに牛乳は、地域ごとに

どのような位置におかれ、また、今後の動向にどう対処していくかという点にあるだろう。日本の農業経済に影響してくると思われるものの一つに、EEC（欧州共同市場）の機構拡大にともなう欧州と米州との経済比重の変化があげられよう。これで日本の経済上の立場がどう変るかが農畜産物にとっても重要な問題になってくる。また、ガット協定における農畜産物の貿易自由化も、さしあつての課題としてせまっている。こう考えてくると酪農、乳業の前途は決して楽観を許されない状況下にあるわけで、すべては「いかにして国際水準までに農畜産物価格を引下げるか」そして「いかに国内農業（畜産）を諸国の農業攻勢から守りぬくか」にかかっている

酪農経営基盤の確立こそ急務

畜産局 S S 生

近年、国民所得の総体的な上昇や食生活の改善等につれて、国民の食糧消費構造が澱粉質食糧である穀類等の消費量は減退の傾向を示している反面、蛋白質およびビタミン等の多い畜産物、果樹、蔬菜の食品消費が増加傾向を示しており、その中でも特に畜産物の消費が逐年増大していることが目だつてきている。この畜産物消費の増大を国民の所得階層別にみた場合、高所得層で順調に伸びていることは当然のことながら最近では比較的所得層での増加が著しくなつてきており、各階層に平均化した伸びを示していることは、畜産物が大衆食品として食生活の中に深く根を張りつつあることを示

生産構造上の質的な差があるため、たとえば原料乳の安定価格問題ひとつとりあげるにしてもはなはだ困難な点が多い。とくに「酪農会議」では、乳業者間にみられた集、送乳の過当競争をなくし、生乳販売の自主性と有利性を生産者団体に与えようというのがねらいのように見受けるが、問題が酪農の将来につながる重要なものだけに一方的な結論がでるようなことがあってはならないと思う。また現在各地で行なわれている生乳共販のありかたについても問題があるのではなからうか。もっと内容がすっきりとしたかたちに整備されなければ、生乳取引の明朗化は望めないのではないかと考える。しかし、これらの問題は、農業成長材として畜産を役立たせ、かつ国際競争にうちかつには必ず解決しなければならぬことで、これらの政策の目的が達成されるよう期待もし、乳業者の立場で協力を惜しまないつもりだが、真に酪農振興と乳業の安定成長のためになよう運営されることを念じたい。

畜産の現状と問題点に簡単にふれたが、これらの改善をおしすすめるうえにも、ここでいまま、私どもの重大関心事としなければならぬのは、日本農業とくに畜産が国際経済の動きの一環として現在

といえよう。

政府ならびに農畜産にたずさわるものは、日本農業のこの重大なしかも急を要する転機をよく認識しておのおの構造改善をすすめるければならないであろう。私も乳業者としては、生産、販売両面はもとよりあらゆる角度から合理化を促進してコスト・ダウンにつとめ、国民食生活改善の使命に沿えるよう励みたい。農業者には、自給生産農業の自然発展的な要素を多分にもつていままでのやり方、考え方をあらため、生産基盤の確立と生産性向上をやめて、この新しい時代に即応した商品生産農業のすがたをつくりあげていただくことを念願したいものである。

すに他ならず、畜産関係に携る者として喜ばしいことである。

しかしながら、その消費量は諸外国は比べてまだまだ少く、所得倍増計画による十年後の牛乳消費量をもみても、現在の国民一人一日消費量の約一勾半が漸く一合強という程度であり、この量を諸外国に比べると欧州の低水準国であるギリシャ、エジプト並という状況であつて物淋しいといわざるを得ない。いま、これを乳牛の頭数試算でみると、現在の約八十八万頭のもの計画達成時の十年後には約三百万頭弱と三、五倍の増殖を図らなければ国民の期待にこたえることが出来ないということとなるので、農業生産面での畜産就中

酪農の飛躍的な発展が要請されるわけである。

さて、これがための酪農行政施策としては、前述した長期見透しにたつて先づ生産体制を確立すると共に消費、流通面のバランスをとりつつ進まなければならないが、戦後の二十五万頭（昭和二十五年）の乳牛頭数を約四倍の現在頭数八十八万頭まで伸ばしえた実績のように簡単なゆかない困難な問題があるような気がしてならない。すなわち最近の乳牛飼養農家の増加率は鈍化してきており、一戸当り平均飼養頭数が若干増して多頭飼育化の傾向がみられるが、まだ全国平均一戸当り平均飼養頭数は二頭強という現状であつて、戦後十年間の急速な伸展とは様相を異にしてきていることが憂慮される。最近、酪農経営合理化の方策として多頭飼育が唱えられているが、土地所有の零細性を克服して、生産費の五〇〜六〇%を占める飼料費低減対策として既耕地の飼料作物等の作付による土地利用の高度化により飼養規模の拡大を図つても、多頭飼育には自ら限界があると思われるので、平場地帯での酪農は立地条件によって差異はあるとしても、高能力の搾乳牛（四〜五頭）の精鋭主義によって自立農家の育成を図ることも、どんなものであろうか。又山村地帯の所謂、原料乳地帯には、まだまだ未利用地や低位利用の牧野が賦存しており、もともと馬や和牛等の生産基地としての役割を果して専ら放牧地および採草地として畜産のために利用されてきた土地であり、最近の調査によつても一五〇万町あるとされている。仮に、この面積から自然的、社会経済的諸条件の優位にあるものを五〇%とみても約五〇万町歩は酪農基地としての開発が可能であろうし整備準備事業である、道路整備、家畜の飲料用木工事、搾乳および電気牧柵の電源として必要な電気導入事業等を行った上で、牧草化さ

畜産の将来と飼料に就いて

兼松肥糧株式会社技師 小野修一郎

一、脱皮する粕畜産
わが国従来の畜産は、粕利用政策にその基盤を置いていた。すなわち米麦を精穀して、人間はその中身を食用に供し、副産物である糖・糠・稲藁・甘藷薯等を以つて家畜の飼料に充当するという方式である。

この粕利用畜産政策は、大正中末期以来、連続して四十年も続いて来たのである。その最も端的な現われは、家畜の頭数がわが国はアメリカの十分の一に過ぎないにも拘らず、穀の使用量は六分の一であるという事実において、明瞭に表現されている。これは穀の使用量がアメリカの一・七倍であるということであつて、今なお粕畜産はその尾を引いていると言ひ得るのである。そしてその当然の結果として、家畜の生産能率が劣つてゐることは、これまた畜産関係者の夙に知るところである。

然るに「もはや戦後ではない」と言われた昭和三十年頃から、粕畜産から脱皮しなければ、日本の畜産の伸展は百年河情を待つが如きものであるという考え方が、畜産関係の大学・試験場・研究機関及び民間の飼料メーカー並びに畜産家の間に湧現して来たのである。

これは勿論、戦後、国民の畜産品に対する消費量が急増したこと

れた一〇〜一二程度の牧区を整備し近代的な放牧方式によつて四月下旬より少くとも十月一杯は青草給与を立前とし、ルーズハウジング（放し飼畜舎）を採用して現地搾乳のできる施設を完備する近代的な労働生産性の極めて高い部落単位以上（経営面積五〇町程度で放牧地三〇町、搾乳牛六〇頭単位）の共同或いは協業牧場が考えられてよいのではないかと思う。わが国の土地利用は森林が%の面積を占めており、耕地の占める割合は一六%（ヨーロッパ三〇%）であつて土地利用率は極めて低く又土地利用区分にしても集落の近傍が低位利用の薪炭雑木林等で占めている地域が多く、奥地が採草および放牧地となつて畜産による土地利用の高度化を阻んでいる所が多い。これを近代化するためには土地利用上の法的措置がとられなければ非常に困難な問題はあるにしても、最近には部落単位或いは大字、市町村単位での協議会或いは団体等の音頭取りによつて至難とされた入会慣行等が調整され建設的な解決をみて経営主体が確立され、現地に即しためん密な調査計画を実施した上で実施設計を樹立しつづつある地域もポツポツ出てきている現状であるが、未だこの途や遠しの感が強い。畜産界としても、このような普及、啓蒙を怠らず、一日も早く名実共に酪農主産地としての経営基盤の整備を確立することこそ現下の急務の一つではなからうか。

が、大きな刺激となつてゐる事を見逃し得ない。即ち戦前最高の消費量を示した昭和八〜十二年を一〇〇とすれば、大戦中及びその直後は三二・六に激減し、戦後二六年に至つて漸く九九・二と戦前の最高時並に回復し、さらにその五年後の三一年には一九九・二と約倍量に躍進し、爾来年毎に一〇%ぐらいつづつ順調なる成長率を示しているのである。

二、畜産増殖計画と飼料対策

政府はこの趨勢に鑑み、最近に至つて畜産増殖十カ年計画を樹立し、昭和四十五年までに乳牛二七〇万頭（昭和三十六年を基準としてその約三倍）、豚七七八万頭（約三倍）、鶏一三六二〇万羽（ほぼ二倍近い）を一応の目標数と定めて、これが達成に注力することになったが、その十年の間には、経済界の影響による時々の消長はあるにせよ、恐らく家畜の多頭飼料時代の到来は、もはや必至の事として、われわれの眼前に迫りつづつあると言つても過言ではないのである。

しかしながら家畜の増殖には、合理性のある飼料の裏付がなければならぬことは、敢て贅言を要しない。在来の糖数中心の飼料は蛋白質及びビタミンB群の含有量は多いが、熱量において十分でない。そのために飼料効果を低めていることは、内外の試験報告及

が畜産家がこれを証明している。一方、最近における農業技術の躍進的な進歩によって、初めてわが国の食糧自給の体制が確立すると共に、麦類に対する消費の減退と、その必然の結果としての過剰麦類の対策が、新たな問題として登場して来た。

然るに、最近における家畜栄養学の発展は、在来の蛋白質中心主義の誤れることを指摘し、いわゆる「低蛋白高カロリー」を称導するに至った。コーネル大学が、鶏に対して蛋白質一六・五%のA区を標準とし、B区はこれに穀物だけを増量したところ、産卵率の増加を確認したという実験は、最も雄弁にこの事実を物語っているといふべきである。

そこで飼料中の糖数類を減量し、とうもろこし・高粱・麦類等穀類の量を増加すればまさに一石二鳥、いわゆる高熱飼料(High Energy Feed)となつて、家畜の生産に良好なる影響を与えと共に、飼料効率(Feed Efficiency)が高まつて、生産に要する給餌量を減少することが可能となることが明らかにされたのである。

三、これからの飼料問題

将来の飼料問題を考究するに当っては、以上に述べた各種の要因

酪農の共同化

畜産三年小野竹一

農業の法人共同化は、ここ二、三年前より全国の農村で大変話題を投げかけています。

う)

最近では酪農、養豚、養鶏、果樹、野菜などの部門で見られるが、全国のところどころに共同化へとスタートされてなかでも酪農が一番進み法人化されつつ合理的経営へと踏み切っている。これはとかく消極的と言われる農村に、新風を吹き込み良き指導者の誕生をもって、酪農経営の企業化が軌道へ乗せられ法人的な合理的経営が実を結ぶこととなったのである。世間の数多い批判もあつたろうが従来の「財産としてのおらが土地ではなくて生活する為の生産手段としてのおらが土地」として共同化へ提供する、いわば農村の農業経営者にはじめて開けた明るい近代的な思いつきを普及した畜産界の先輩諸兄に他言を待たず拍手を送り喜ぶべきことと思う。

眠る宝を活用させるには我々は先づその宝の素性を知らねばならないし、その素性をいかに活用するかを学ばねばならない。従つて事実を知ること努め、良き指導者となり得る様に日々努力することが肝心であつて将来畜産人となる者には当然なくてはならない心構でもある。

共同化にするまづ第一の理由は労働を軽減し、一日の労働時間を短縮し、都会的な月給と週休制により生活の安定を計るにあるようであつて、他にも事情があるが過重労働から解放されることと生活の安定に目的があるようだ。法人化には研究と調査が肝要であつて先進地の事情を調べ、不適の要素をそれぞれ究めなければならぬが相応の決断を必要とする企業である。経営者から平均の稼負担で運営する法と常勤者を雇う法とあるが、多忙時には臨時の雇用で侷たり、常勤者雇用法であれば、経営者の中からその時期のみ労働力を提供すればよいのであつてこのようにして仕事

を前提とすることは素より言うまでもないが、さらに次の諸点をも考慮の中に加えなければならぬ。

- 一、蛋白質を構成するアミノ酸の問題。
 - 二、脂肪無窒素物繊維等の可消化成分の問題。
 - 三、灰分・ビタミン・ミネラルの問題。
 - 四、配合技術の問題。
 - 五、配合労力の問題。
 - 六、配合原料の購入価格の問題。
- さて以上の問題を解決するには、家畜栄養学に通暁し、飼養標準を十二分に活用し、各種の栄養分を適正に含むように、複雑な配合の設計を行わなければならない。又家畜飼育頭数の多頭化と共に、大量の飼料配合には、成分を均一化する為の精密な配合機の設備を必要とする。

これらの点を考慮する時は、原料の大量購入に依る価格の引下げ大量生産による労力の節減、専門技術者による配合設計と製造は、専門工場において製造された責任ある完全配合飼料によつてのみ、すべて解決でき得ると確信するものである。

農業経営はやはり共同で企業化することで健全経営となり一考を待たず奨めるべきことと思う。(大は小を兼ねることとは意味が違

の能率の向上を計るのが総ての面々で賢明である。

共同化に踏み切りその大成までは遠くても、一応の成功を聞くのも近い将来にあるようである。

理想をもつ夢のある経営、理想的経営までの段階には大変な苦しみがあることは当然である。過重な労働、低賃金、粗末な装備、これを積み重ねたのが現在成功といわれる畜産人の過程と思う。決して疑いのないことである。

次に現状の問題点を拾つてみることにする。農林省の調査(昭和二十六年～三十年)

- 牛乳、一、八七五キロ当り、平均生産費、六十五円七十三銭である。そうだが、埼玉県の或る共同経営でのデータを見ると大変高い生産性をあげている。平均生産費五十一円六十五銭であつて実に十四円八銭安の好成績をもつ生産性で成功している。
- 1 生産量一頭年間六・七五トンとして
年間二十頭で百三十五トンとすると、乳代収入は四百八十四万六千五百円となる。
 - 2 生産量一頭年間五・六トンとしても
乳代四百二万八千円の上となる。

一キロ当りの生産費 二十七円五十銭
一キロ当りの乳価 三十五円九十銭だから一キロ当りの純利益は八円四十銭となる。

従つて年間百三十五トンの牛乳を販売すれば百三十三万四千円、百二十トン販売するとして九十四万八千円の利潤を上げられることになる。これ丈の利潤を上げるには相当の無理をし不安定なところも多いが立派な共同化経営と思う。そこで無理と不安定について少な

くする為に現状を分析することが必要となって来る。

ここに従来のような個人の労働の集まりより機械化にして頭数を殖すことである。この場合は飼育労働費は比較的低いのは低賃金と長時間労働のそれ以上に牛乳の生産量が著しく多いから、これ丈の成果が得られたのである。日頃共同経営の各要員が完全に近いまで各々の持ち場の仕事を立派に解決しているからであって、反面に於いて先程述べた長時間労働（一日十五時間位）休日返上と大変な犠牲になり押し進めて来ている。これももやがて行き詰りが訪れること必至だ。このまま共同経営意識に甘えていたら遠からず、能率の低下と不平不満を招くことになる。そこで機械化ということ、労働時間の短縮と管理頭数を殖すことで更に一人当りの生産量を増す必要がある。

これ迄は飼育に対する労働に關した事を主に問題としたが次は、飼料費についてのべることにする。近年の全国平均キロ当り三十二円四十銭である。この平均を上まわる飼料費では現状の乳価に対し採算のとれる事は不可能と推せられる。都市近郊ならビールカス、トーフカス、でんぶんカスを蒐集しても飼育できるが、そうでない山村では畑での生産飼料となる。従って耕地面積の拡張と生産コストをいかに引下げるかが問題である。

其の他乳牛購入代金の償却費ですがこれはなるべく適切管理で長期に償却する方法を考えた方が良く、なぜなら当初は色々出費が積むからである。施設には牛舎とその附層の設備費（サイロ等）であるが借入資本なら低利子と長期返済を条件として借入すべきである。

要約すると乳牛頭数を殖し利潤は專業でなければ殆んどを乳牛頭

の推進を行い育成の基地を設ける必要があるようだが、新しい考え方として妊娠牛（乾乳期）となった牛を地方の基地と言う牧場へ移し仔を生ませ、仔は牧場で、母牛は搾乳地へ連れ戻し搾乳するというように、牧場と搾乳場との分業的要素を具備し自給飼料を主体とした酪農を成立させることにより、今後の共同化の発展が訪れる様に思い又これを信じるのである。

地域間分業時代へと変遷しよりよい総合農業近代化の中で酪農近代化へとスタートすることが今後の展望となると思うし各位の経営を反省し今後の課題を拾ってみることも発展の一要因となると思うがどういふものでしょう。

今や外国でもこの様な方式がとられて、推進されているようである。アメリカに於ては、地域関連分析などということばもあらわれ相互開発的な分業が積極的に押し進められている。日本でも技術と経営の革新でよりよい酪農経営のできる日も遠からず訪れることを信じます。

数を殖す方にまわし、最低の設備から最高の生産を上げるよう努力し当分の間の共同化には乳牛酪使されることから免れない現状の経営であると言つて過言でないと思う。そこで今後如何にしたら良いかと言ふことになるがかつては一頭から二頭の副業的経営からスタートしてやがて五頭六頭になると、一人で飼育することが困難となり壁に突き当たる。ここで勢い思いつくのが副業からの主業へと切り換え多頭飼育へとなり又々壁がある飼料畑の問題で耕作面積の狭少である。ここで考え出したのが共同化である。個人でできない機械化もでき、寄せ集めの畑でも輪作と間作との合理化利用を考慮高度化することである。これもできなれば河川とか、高原とかを利用し放牧飼育となるが多頭を少人数で経営する方法ならば乳量は多少減ずるが広いこの原野の土地条件があるなら採算は充分とれるようである。この様な条件が具備していなければ購入飼料に依存することになるが採算の面で算盤をはじき得ない様である。

極く最近では專業牧場方式といいますが、多頭飼育の牧場式経営へと移り行く傾向にあるように見られる。これに伴う反応として、乳牛仔牛の消耗である。需要が高まる為に、仔牛の価格の高騰と濃厚飼料への依存が高まる為に飼料価格のつり上げとこの二つの不安定な要素が生じ四苦八苦の状態である、だがこの現象は牛そのものからの原因ではなく、養鶏、養豚の集団飼育化に伴い拍車をかけられているのである。

結局今度の酪農共同化には安定と発展を心するには乳牛飼育を本来の姿に戻し自給飼料を主体とし育成繁殖を行うものに戻らなければならぬと言へる様である。

育成繁殖には適地を選定する必要があるが現状では活発に共同化

詩

水のほとり

夕暮の水のほとりに立ちつくして

私は水の流れを眺めた

夕波は小さく碎けて美しいあかね色の雲を映していた

せせらぎの静かな音に無言の時間が流れていった

沈黙の中に聞える一つのささやき

誰か私を呼んでいた。

水のほとりのたそがれの中に残った

美しい思い出

我が親愛なるペンフレンド惠美子より



北海道へ実習に行つて

畜産三年 森 井 正 孝

七月十三日太田君、翁長君、小生三人が上野を朝出発した。車中の窓から東北地方の風景を見ながら私は今まで日本は狭いと思つていた。しかし田や畑に不適當であるがまだ沢山の未開墾地があるのに驚いてしまった。この様な所は農家による開墾は困難であると思つた。現政府は工業方面に力を入れ過ぎ農業に関心が出来ると思つた。日本は海外貿易を盛んにしなければいけないからだと思う、従つて我々畜産人は農村が安定した生活を営むことが出来る様、又すべての日本国民が一日三合の牛乳を飲むように努力しなければならぬ、色々と考えているうちに、真夜中青森駅に到着する。そこから船に揺られること四時間半、ついに私は生まれて始めて見る北海道函館港に着いた。空はどんよりとして小雨が降り、薄着だったので寒氣立った。船から降り五時四十分発札幌経由旭川行の汽車で新得に向う。腹が減つたので名産の鮭の弁当を食つたがあまりうまくなかった。車中から外の景色を見て感じたことは内地の農家と比較して西歐的で、赤青等の色の家が広々とした牧

草中に牛と一緒に散らばっているのを見てると異国に来た様な錯覚にとらわれてしまった。果しなく続く青い牧草畑にポプラの木だけが高く聳えて我々を心から歓迎してくれている様である。七月十四日の午後五時半新得駅に到着した。前の日に手紙で知らせたので種畜場の指導係長大橋氏がトラックで迎えに来てくれた。種畜場まで町から乗物で十五分、歩いて四十分の所にあつた。我々の寝る所は第三ホテル(別名第三農具室)の二階で、畳が敷いてあるだけで何も仕切りがなく、雑魚寝部屋である。北大、帯広大、茨城大、農大、農工大、日大、京大、兵庫農大、広大、鳥取大の実習生二五人がこれから二十日間寝起きをすべき部屋である。始めのうち互に顔見知りでないせいかなんとか面白味がなかったが日数がたつにつれて、碁、麻雀、将棋、トランプ、花札をしたり、レコードを聞いたり、又色々な事を話したりしてこの零困氣に慣れるにしたがつて個室よりもこの方が楽しく、食事も麦飯であるが朝は牛乳を飲ませてくれた。又牧草收穫の時は豚肉等もくわせてくれた。私がかつて行つた千葉県総合種畜場の飯より良かった。仕事は

七時より十一時三十分まで、午後は一時より五時までである。

到着した翌日は空に雲一つなく晴れたり、東京の蒸暑さに比らべて涼しく、朝など長袖シャツ一枚では寒かつた。九時頃から農大出身の課長山崎氏が場内をトラックで案内してくれた。場の総面積は一六五二町歩で、そのうち飼料畑三九町歩、牧草採草地二六四町歩、放牧地一〇七町歩、人工林天然林その他一一一〇町歩あり、農業機械はほとんどすべて完備していた。家畜はホルスタイン、ショートホーン、ベルシュロン、土産子、パークシヤ、ハンブシヤ、レグ、プリマスロック、ロードアイランレッド、ニュハンブシヤ、ホワイトロック等。牧草は主にルーサン(乾草用)でチモシー、クローバー、その他等、西に日高山脈が連り、緩傾斜地で、泥炭層の強酸性から成り、標高二二〇〇〜四五〇米の所にあつた。

又非常に景色が良く、東に十勝平野の台地が横たわり、晴れた日には雄阿寒、雌阿寒、大雪山連峰、狩勝峠等が見られる。我々実習生の主な仕事は牧草收穫で約五〇〇屯收穫の予定であつた。七月十五日收穫が始まり、その日は暑く牧草をトラックに積んでいるうちに顔から汗が滝の様に流れ出た。しかし内地と違って空氣が乾燥しているから、日陰に入ると涼しく、休むと汗がすぐに蒸発した。あまり喉が乾いたので、川へ水を飲みに行つた。この川の水が非常に清く、一分間も手を入れていたら冷たく痛くなる位つめたく非常にうまかつた。仕事が終りほつとし、腹が減つていたので夕食が非常にうまかつた。七月十七日天氣が悪いので、飼料大豆とデントコーン畑の除草をやらされる。その畑が広大で一畝が二百〜二百五十間位あり、撈るのに一時間位かかつた。が人数が多いのでそれほど辛らくなかつた。七月下旬から雨が降り続き收穫出来ないのです

ライドを見たり、畜舎、豚舎、鶏舎、馬舎等で畜舎実習をやらされた。又豚と肉牛の審査の講義もあつた。十勝清水にある雪印乳業、イースト会社、竹岸ハム等へ見学に行く。帰る途中で或る農家を見学させてもらった。畜舎内は薄暗く不潔であつた。農作物も大豆小豆ビートが主で乾草はあまりつくらず購入しているところの主人が言つていた。今年は特に天氣が悪く実習生にとっては有難いが場としては良い牧草が出来ないので牧草をかわなければならぬと指導課長がいつていた。大体トラック一台当り並で一万円、特で一萬五千円位である。

八月上旬から天氣が良くなったので收穫が開始された。朝から五人が二つに分れてトラックに積み上げた。まるっきり人海戦術である。今日から七時まで残業をやらされた。始めのうち牧草をホークで硬く丸めるのがうまくいかなかったが慣れるにしたがつてうまく出来る様になった。硬く丸めないと牧草をトラックの上で受ける人が非常に苦勞をする。始めて私は上乘をやつたが重労働でしかも真四角に積まないと沢山積むことが出来ず、又くずれてしまうので大変苦勞をした。時々大きな塊りを持つてくるので、これをトラックの上でホークで受け取るのだが非常に重く牧草と一緒に下へ落ちそうになつた。体は汗でびしょびしょになり、手にママが出来て痛くて辛かつた。又乾草を畜舎内は狭く蒸暑く大きな塊まりとなつていて、牧草を畜舎の奥に入れるのに苦勞をした。汗でシャツはぬれ、埃のために喉がカラカラになりまるで生きたこちもなかつた。八月十日実習が終わつたが目標の半分しか乾草收穫が出来ないのは非常に残念であつた。種畜場の感想を述べますと風景も美しい、牧草は大きく柔く、牛(ホルスタイン)は内地と比べて大きく見えた。こ

この人達は口は悪いが気はやさしいようであった。又昔アイヌ人が避妊薬として使用したガガイモという名の植物を教えてくれた。この根を乾かして煎じて飲ませると妊娠しないということです。

八月十一日新得駅を我々三人で出発し芽室で片山君と待ち合わせ帯広へ向う。そこから昼頃バスで阿寒湖へ行った。途中大平原コースを通った。このコースは帯広を基点とし上幌までは直線コースの連続でカラ松並木の美しさと遠く望む日勝連峰や十勝平野の眺望にまず北海道の雄大さを見ることが出来た時間のたつのも忘れてしまった。約三時間半で阿寒湖畔に着く。船で湖を一周してマリモをみたがあまり美しくなかったし、水も青くにぎっていただけで一泊した。

翌朝早く美幌行きバスに乗り摩周湖へ行く。摩周湖はこの名のごとく神秘的ではかの所は晴れているが湖の周囲だけ雲に被われ、めったに晴れる日はないと、ガイドが説明してくれた。しかし我々が来た時雲一つなく晴れたり水面は油をひいた様に静かで濃紺色の湖面に吸込まれるようであった。ガイドの話によると一回で摩周湖

を見ることは稀で、大抵二〜三回位で見ることが出来るということです。我々がここを出発する時は湖上にガスがかかり始めた。途中美幌峠から望む屈斜路湖はとてすばらしかった。

バスに揺れること九時間、美幌駅に夕方着く、ここからバスで網走港に行き、片山君とわかれ夜行で札幌へ行き、翌朝五時に到着した。札幌で翁長君とわかれ、私と太田君は市街を見学したが、東京同様蒸暑く、北大の植物園を見学した、昼頃支笏湖に行くため千歳に向う。この湖は透明度二十五米、最北の不凍湖である。支笏湖の北側に標高一三三〇米恵庭岳、南側に樽前山一〇二四米が聳え立ち、しかも札幌に近く風光明媚な所である。オコタンペ湖畔のセントラルロッジで一泊した。

八月十四日朝早くここを出発し長万部經由函館に向う。時間と金がないので市街をあまり見ることが出来なかった。

十五日夕方上野に着く、東京が非常に蒸暑かったので、又北海道へ行きたくなった。

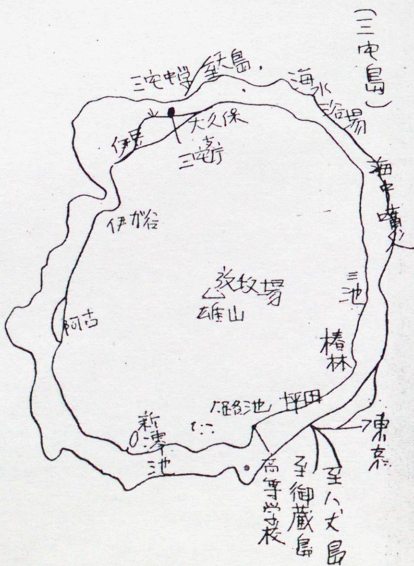
三宅島見聞録

畜産三年 Y H グループ

三月一日午後五時三十分東京竹芝桟橋を出発する。既にあたりは少し暗くなり早春の風は冷たい。

我々が乗り込んだ船は藤丸と云う二百トン程度の客船兼荷物船の様な小さな船の為、東京湾を出る頃は波も荒くなりよく揺れる。我

々の今回の遊行の目的は「三宅島に於ける酪農形態及び其の生活環境と住民の生活実態を調査し其の問題点を明らかにし我々の今後の道しるべとすると共に日本酪農の増進を計ることを目的とす」と我々自身が理解に苦しむ様な目的を立ててしまった。我々の今回の目的的地である伊豆三宅島の概要を記しておく、三宅島は東京より直線距離南々西二百KM、大島より六七KMの距離に在り、緯度三四度三分〜三四度七分、経度百三八度二六分〜百三九度三四分の所に位置し藤丸で十二時間を要する地点で毎月東京から定期船が六回出てゐる。島の面積は約五五平方KM、周囲三八KMの円形の火山島で中央には雄山と呼ぶ火山があり、昭和十五年大噴火をした、ヌカレデラ底は八丁平と云て島の共有牧場がある、年間暴風日数二百四十日、台風の通路として有名であり又気温、湿度の年間平均は気温十七度、湿度七五%、この島の総人口は約七千二百人で男女の比は少し女子の方が多い様である、又この島も江戸時代には罪人流謫の地で、画家英一蝶など二千六百人も流されれ記録が残っている、特産としては椿油、バター、ツゲ材、天草などである。島の概要はこれ位にして、次にこの島は東京都の行政下にあつて正式な呼名は東京都三宅村であり、円型の島の海岸よりに五部落、坪田、阿古、伊ガ谷、伊豆、大久保、三池が散在し、各部落の人口密度は百二十人位でこの中に部落ごとに小学校、保育所、診療所、郵便局、農漁業組合が在り又この他村には中学校三校高等学校一校がある。各部落共に大体同じ形態であり経済基盤は浅く一般に乳牛飼育農家兼漁業世帯が大半をしめていて坪田地区の天草、坪田・辱古・伊豆地帯の清淨野菜、阿古地区の漁業と言われるのははっきりした区別は出来ない様である。



島は予想に反して耕地面積が狭いと言うよりむしろ太平洋からの強い潮風の為に海岸沿いは作物を作る事が出来ず、手を付けない所が多い、人間が宇宙を飛ぶ時代に、今だに原始的な焼畑農業を営み地方がなくなると新しく開墾して作物を植えると言う様になっている。田畑が一向に増加の傾向を示さない様子である、この原始的な方法を取って居る理由を村の有力者に聞くと、畑を耕し肥料を十分に与えれば十分な収穫は確かに在るが、作ったものを売るにも船賃が高く付き、元を取る事が難かしく、肥料代としての現金分だけ損をする為に島の人は肥料を買ってまで作物を作らず自給自足の程度の農業しかして居ない、従って米は全然収穫されず野菜も高級なレタスを除いては自給程度で、三宅島に行けば野菜位は不自由しないだろうと思つて居たが店先にはキャベツとニンジン程度のものしか列んでおらずそれも全部東京より運んで来たものだと言はれて驚

いた。又この島では強い潮風の為に果物は全然収穫されないが最近になり、山と山との間を利用して果物を作ろうと言う話が出て居るそうである。

さて此の辺で酪農関係に入りたいと思うがその前に三宅島に於ける酪農の地位について記したい。島の年間収入は約一億八千万円程度で内訳は水産物収入一億二千万円程度で農業収入六千万円程度になっている。しかし水産物収入のほとんどは天草収入、農業収入の大部は畜産収入で占めている。天草収入は非常に高い率を示しているがしかし現在は峠を越し下り坂にあるため畜産の熱は大変で村の有力者の話しではブームに乗った感じだと述べていた。島の乳牛頭数は約八百頭（未經産牛を含む）で、其の大部分が坪田地区に片寄っている様である。島の乳価は現在五五円前後で二三年前にくらべると経営もだいぶ安定して来ている。しかし戦前の四千頭に比べるると未だ未だもの数ではないが現在は畜産がブームの為に増加の傾向を示している。此の事は畜産人となる我々にとっては好ましい傾向と思われがここに島なるが故の問題が在ると思う。まず島は全部回りは海に囲まれている為に潮風が強く吹き当り「ラジノクロパー」や「イタリアンライグラス」等の牧草は成育せず青草はハナマグサのみである。ハナマグサと云うのは主に八丈島、三宅島を中心にして一年中青々と生えて居る草で、成分率は「O・C・P」一・八「T・D・N」九・〇で育成牛はともかく経産牛は三分の一の濃厚飼料を補わないと経済的にかえってマイナスが多くなるそうである。しかし島の交通が不便な為に飼料が二割高となっている。それにもまして困る問題として、島で生産した牛乳を島の中の牛乳消費量が一定で増加しないために有利な市乳として東京方面に出す事

が出来ない為現在生産した牛乳は島の小中学校の給食程度で大部分をバターとして生産している。しかし内地（島の人は本州を内地と呼んでいる）に比し二割も高い濃厚飼料を与えて居るため、利益は予想以上に少なく、企業化した経営も火山島である為に地下水が全然なく天然の天水によるため乳牛の様に新鮮な水を多量に必要とする動物を飼育する場合の水不足等の点から少ない。此の辺にも近郊酪農と異った悩みが在る。しかし決して酪農経営として不利な面ばかりではなく山頂の八丁平には明治乳業が残っていた二百八十町分に及ぶ牧場があり現在其の牧場には二百頭位の育成牛が雄牛と一緒に飼育され自然繁殖している。我々が此の牧場を訪れた時にも数頭の牛の群が暖かい春の日差をうけてのんびり牧草を食べて居る光景は実に美しいものであった。又この牧場は酪農組合が一般農家より乳牛をあまり月五百円の飼育費を取って経営し牛が分娩近くになると農家に連れ戻す仕組になって居る。我々も見に行つて未だ未だ多くの頭数を収容する事が出来、この牧場を有利に使用したら三宅島も戦前の酪農にもどるのではないかと思われる。

島には坪田に種畜場が在り、牛、馬、豚等が各々数頭あり、中でも乳牛が一番多く、十数頭いてカーネーション系の種牛も一頭いた。特に牛舎は島にしては立派なもので青梅の種畜場を似して作ったとの事で設計図を出して来て説明してくれた程で、我にとっては良い勉強になった。此の種畜場で一番目立つ事は飼料として桜島大根を多量に生産して居ることで、島は砂地が多く粘土質が少ないので作るのに都合がよく、一個平均一・四五貫位であり又此の種畜場では四週年の輪作経営をとって居た。最後に豚と鶏に関しであるが、何回も述べて居る通り、近郊とも

遠く離れ、船の便も少い関係から豚はそれほど盛んでなく、各農家が自分の家の残飯を利用して一、二頭飼う程度のもので、特に面白いのは豚を殺した場合に貼紙を出して豚肉を売る程で、この点からも想像がつくと思う、鶏も豚同様の形態を取り値段も一個十五円で

都市並には驚いてしまった。以上大体三宅島の実情を我々畜産的な立場から見えて来たまま、聞いて来たままを書いて見たが、思うようにペンが走らなかつた事を残念に思いながらも又何時の日か三宅島を訪れる機会が必ず来る事を心から念願する。

夢

第一の夢

自然、それは漠然とした表現かも知れないが、大きいものだという事は分っている。人間が自然を解明し、支配しようという所に文明、文化があるといつても良いのではないだろうか。しかし自然の絶対的支配はどんな偉人が世に出て来ても又開始以来の人間が総力を結集して来たのにもかわらず出来ない事だし、あり得ないという事も分っているのだが、それを相対的にでも動かそうと努力すればこそそこが人間の価値であり文化と云えると思う。ここに夢が生まれるのでありこの理想の少しでも解明支配に近づく事は一面から云えば人間の勝利とも云える。その手段が学問であり更に分ければ学問により生れてくる物質的な所得が文明という意味であり、文明は主として生産の所産である。一方人間は自然を動かそうとする心精神的所産を文化と呼んでいるのである。何故に自然を支配し服しようとするのかは人間が生来の欲望とも云える本能から生まれるのか。大自然の集約といえる山の場合にも当演ると考えると。——と

畜産三年 片山 洋

ところでいさか屁理屈とも思われるこの理屈によって山の好きな人達は事実こんなたわいな事を考えないとしても、心の底にある事は否定しないだろうと思う。元来試験という事は良い事なのだが苦しい試験を経る為に重い荷を背に狭い険しい道を喘ぎ行く人間が何をを得るであろう。下界を忘れあらゆる邪的な欲望を忘れ、自分が驕然たる現代ではその間だけでも何もしないと無我であり、その人が何れをも彼自身の心に咎めない心の爽やかさ山へ登るのだという意識とか欲求さえもない自分の行動に対し全部が肯定出来る態度をとる事であり、自然の心すなわち禅の言葉で表現すれば無心の姿に帰る事を願っている為ではないだろうか。何か純なる目標は別として副産物をその時に目的として何れかの行動をするという事は自然の心の姿ではないのである。——たしかに面白くない事があつたり時にそれが対人関係の練れであつたりすると、誰もいない知人もいない、唯人がいないというだけで山へ行つてみたくなる事もない事はない。単に下界を忘れるという事は西行の現代の焼直しであつ

たり中国の隠士のように世から逃避している攻撃を受けるし、又酒を飲んで何もかも忘れたと思う気持と同じだと反論する者もいる。ここで僕はそれに対して「情熱」という言葉を使って反論する。情熱というものに真に山の好きな者が知る山の好きな者が知る山への愛情があると思う。それ故に山から帰った時にはその山への愛情が感じられる所以である。「私達は勿論情熱を抱いて山を想い山へやって来るのだが、ただ山頂での歓喜や雪の斜面での有頂天な気持を求めているのではない。むしろその情熱の求めているものは山へ来る者の一層よく知るこの出来る宿命的な悲哀である——申田孫一」という以前に読んだ事のある文章がはつきり思い出された。

第二の夢

一日山を歩いても二、三人の管林署の人か樵とかにしか合わない日がある。唯「こんにちは」という最も儀礼的な言葉を発するにすぎないのだが、彼等の素朴な恰好といい、泥臭い言葉も決して自然と調和が取れないとは思われないが、自然、山に生活の糧を求める人の臭がする。

第三の夢

山を下る時には部落を取る。この部落が平家の落人のものであったり食糧難時代の開拓部落であったり、昔は金山や銀山で繁栄を誇ったものであったが今は遊女屋の敷石を残す荒れた山村であったりする。こんな事が無事下山したという緊張から解放された安堵感も手伝って思い出に残るものである。部落からすぐにバスという事もあるが交通機関のある所までは幾つかの部落を通り抜けて行く事がある。時間の都合でその途中で泊らなければならぬ場合もある。たまたま僕はある部落の一番大きな家に泊る事になった。この家は

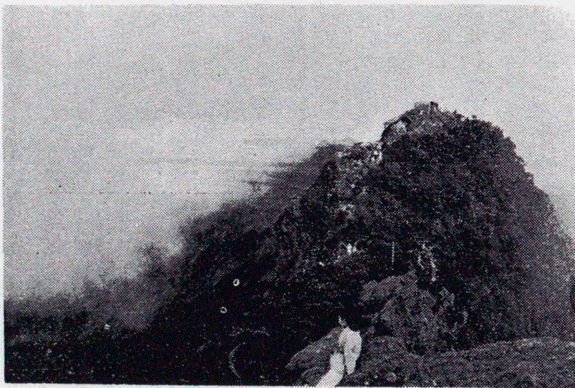
第四の夢

それから数年経って僕は再びその部落へ行った。それまでも学生の間にも会社務めをするようになってからも数度部落の側まで行っていたが部落は通らなかつた。何か自分が考えている事が壊れる様な予感がしたからである。T川にそって細い道を歩いていると赤子を背って来る女とすれ違った。その風采は冷い風も共なって一層惨めさがあった。互に目が合ったが「こんにちは」という挨拶だけした。僕は彼女がこの近くに出来たダムの犠牲者で土工にふられたのか夫となるべき人が事故で死んだのか分からないが生活がうまくいっていない事は明らかに分かった。その日は無理をして部落には泊らなかつた。僕は一生ここに来る事はないだろうと思って部落のはずれから振り返ってみたが一本道の上には人影はなかつた。以前と変わった所は谷をはさんで数十万ボルトの電氣を通す二本の鉄塔が小さな部落を威圧するように立っていたのが部落には電氣がなかつた。それが今度は各戸に申訳ばかりの電燈の光があつた。

第五の夢

僕はたいした人間の成長もなく社会の大きな渦巻に揉まれていたが、あまり感心したものでない社会的地位は出来ていた。矛盾した対人関係にうさうさしてはいたが死ぬのは恐ろしかったから生きている僕であった。もともと嫌いであつた酒もなんとなく相当の所まで来ていた。そんな時ある日、面白くない宴会の帰り僕は一人で飲み直し大分酔ってしまった。家に帰ろうとボサツと立ってタクシーを待っていた。やっと車が来て乗ったが、そこへ明らかに女給と思われる女がS町まで乗せて行ってくれと乗込んで来た。車が走り出し何とはなしにタバコをくわえると職業柄女は火を付けてくれた。一

明らかに一種の暗い陰のある旧家とわかるものであつた。あまり広くない庭先で中学生の男の子が襪を手でもみ乾燥させている所であつた。その席のそばでじっと中学生の仕草を眺めている僕を見上げる様にして大きな猟犬が居た。六月の日は長いのだがT川の谷間の部落では五時半を過ぎると日は陰り薄暗くなって来ていた。次第に夕陽が迫り両側に聳立山の端は造同期を過ぎ、老期に入った山の美しい線を見せている。そこへ家の人達が襪を背って帰って来た。この地方では男でもモンペ姿である。襪と滑子が唯一の換金物であるこの部落では学校も微休暇という休みがある。山の人達はどこでも親切で僕を泊めくれる事も快く承知してくれた。今日採って来た襪を茹で乾して夕食になった。夕食には僕の為に釣って来てくれた岩魚がでた。山の人達は東京の話が好きだ。他との交流のない為か外的な刺激を求めているようであつた。岩魚と手打ちの蕎麦を喰いながら僕は適当な受答えをしていた。この家には大変美しい娘さんがいた。この地方では、雪の為に一ヶ月遅れた六月五日が菖蒲湯であつた。彼女は厚い木で作った風呂で充分にあたたまった僕にお客用の丹前を着せてくれた。女の人に着物を着せてもらつた事のない僕は自分で着ようと袖から手を出したら着せてくれようとした娘さんの指と僕の手は触れた。「おまき、東京の人だか、ぬし」「はあ、東京で大学に通っています」との会話だけだつた。娘さんはすぐに台所に行つて夕飯の後片付けをしていた。炬火裏端で家の主人と一切の話をしてはいたが僕は出された粟で作つた酒の為すこし暑くなつて来た。水を飲み台所へ行くと暗いランプの許で彼女は洗濯をしていた。ランプの暗い灯が顔の刻を深く見えさせ最前より印象的だつた。



瞬マツチの灯が女の顔をうかがひ上げさせた。僕は彼女のアパートへ行つた。彼女は一人でしゃべつた。ダムの保障金は欺された事、子供はもう一度今はダムの底になつてしまつた部落へ行こうと彼女を誘つた。出発は土曜日だつたがその前の日彼女は旅行に出かける為に買物に出かけて交通事故で死んだ。これも道路と自動車のアンバランスに依る一方的な禍であつた。僕はそのひき逃げの記事を夕刊で知つたが読み流したに過ぎなかつた。

何となくこんな夢を見たのはK岳山行から帰つて来た日の快く疲れた夜の事であつた。夢はいままで僕にとってはつきりした記憶がないのだが、この夢はバラバラに見たのをまとめたものである。この夢を更にロマンチックにしたのは主人公になつたつもりストーリーと背景にあるT川の静寂とした眺んだ大自然であつた。

随想

無題

助教 平山 常雄

私が呼び起されたのは十二時を少し廻っていた。月夜ではあったが昨日一日降り続いた雪が、解けもせず氷りついてことの外寒い。夜気が出口に立った寝間着の肌をギョッと引き緊める。迎への者の話を聞くと乳牛のお産だ。日時も予定通りの分娩だし、既に経験していることなので、型通りの処理をし、牝が生れたので安心して一休みしていた処、思いがけなく子宮が飛び出してしまった。夜分で申訳ないがすぐに往診してくれとのこと。

分娩後に併発する子宮脱は一刻も早く整復してやらなければならない。時間が伸びればそれだけ子宮は鬱血膨大し血行障害を起すばかりでなく、牛の起臥するたびに小屋の腰板や床に擦り付け、出血はおろか子宮壁を破ってしまうことすらある。すぐに戻って湯を湧して置くように頼み、往診の

支度をする。

消毒薬にクレゾール、洗滌用に明礬、止血剤にエスボン、チトラート、万に備へて外科具一式、注射薬は強心剤、消毒剤、栄養剤、それに崩帯、ガーゼ、脱脂綿と手早く整えて鞆に押し込み、スキー帽にアノラック、ゴム長靴という出立で自転車に乗る。幸い月と雪明りで路は明かるい。教へられた田舎路を進むにはさして困難ではなかったが、顔にあたる風は想像以上に冷たい。誰一人いない真夜中の路を一生懸命に突き進む。

四軒の路はかなり長く感じられた。着いてみると、牛小屋の周囲に近所の者が五六人集ってわいわい騒いでいる。中を覗くと牛は横臥して一斗樽程に赤く腫れ上った子宮が汚れた敷藁の上に投げ出されている。此の牛舎には電気が来ていない。薄暗いランプとローソクが二本点され、幸じて照明の役割を果している。

早速ゴム衣に着替へながら手伝いの人々に次々と仕事の役割を命ずる。此等の人々は良く動いて呉れる。夫々乳牛を飼養し、いつかは同じ襦に見舞われるかもしれないことを想像して、一つには経験を得心と、

一つには農村特有の隣人愛から真剣に良き助手となってくれる。

牛は立たされて手術しやすい位置におかれる。温湯がバケツに満たされる。クレゾールを入れて消毒薬が作られる。二%明礬水の洗滌薬も準備された。此の間、僅かに十分足らずだろう。愈々子宮脱と取組むのだ。舎内にはいつて患部を点検する。分娩直後のこととて胎膜が未だ半分程官草(牛の胎盤)から脱落していない。右側の一部分から多量の出血がみられる。なにかに擦り付けて子宮壁に十程程の裂傷を作っている。手早く局部の消毒をして、先づ止血、縫合だ。ローソクの光で行はれる手術は実に不便、嘗めるように顔を近付けては止血の度合を見る。次は胎膜の剝離だ。鳩卵大から拳大に及ぶ官草から、順々に胎膜を剝がして行く。数が多いからといって時間を掛けて行く暇はない。超スピードの処理が必要だ。外気の寒さを感じない程真剣に、而も綿密に手先が動いて行く。脇で補助をする者、牛を保持している者、皆私の手先を眼で追っている。

胎膜を剝離し終って子宮全面の消毒、もう一度出血の有無を確かめてから最後の整復

にかかると。脱出して下っている子宮と牛の尻部との間に消毒されたビニール布を挿入し整復中に汚染されないように準備する。脱出した子宮の容積を出来る限り縮小させる目的で、冷たい二%明礬水を充分に注ぎかけてやる。脱出子宮の先端には必ず陥凹部がある。これが反転脱出した子宮角の先端であるから、此の部分が一番奥に整復されるべきである。此の陥凹部に拳を当てて除々に腹腔内に押し戻す。だが一度反転して脱出した子宮はそう簡単に挿入出来るものではない。牛も思はぬ圧力に対抗してか努責をする。右手の拳はしっかりと陥凹部に当てられ、左手が間断なく動いて静かな強い力が加へられる。

どれ程の時間が経過したか、徹寒の真夜中なのに顔に汗が滲む。大きな脱出子宮がすぼりと腹腔内に入った時にはやれやれと思う。だがこれで手を弛めることは出来ない。更に腕の付根まで手を子宮内に挿入して、押し込んだ子宮を正常位置に直してやる。子宮は完全に正常位置に戻らぬと必ず再脱する。

再脱防止の目的で圧定帯が作られ、手伝いの人々にその装着法を教へながら注射の

準備にかかると。用意して来た薬液を皮下に静脈内に、夫々注入し終ってやっと解放された。汚れた手を洗いながらつけてくれた煙草を一服すると周囲の人々の安心した顔が眼に映る。器具を片付けて着替へする間に、牛小屋はきれいにされ、牛は静かに干草を喰べ始めた。仔牛が物置の片隅で時々立上がりうと前肢を踏張っているのが見える。

困窮裏面に上りこんで、茶菓子も馳走になりながら次々とする質問に応答する。乳牛を飼養して農家経済の貧困を少しでも軽減しようと努力している人々は、起り得る災害に対して極めて敏感だ。子宮脱の原因が、産後子宮及靱帯等の弛緩状態が子宮復故機転を遅延せしめることに依り、又胎児過大、胎水過多等が子宮壁の過度の緊張をもたらし、産後無力状態となって誘発されるなどということについては不可抗力のものと考えたがるが、飼養管理の失宜に依って、例へば濃厚飼料の過給とか、石灰分の不足、運動不足とか彼等の日常管理に直接関係のある事項が原因となると驚異を示す。

一つの事例が一つの経験を生み、やがて

大きな酪農家として育って行くことだろう。湯気の立ち昇る朝飯が運ばれる。折角用意されたものであれば固辞することも失礼だ。遠慮なく箸を取る。熱い味噌汁と漬物、貧しい食膳ではあるが実に旨い。

十年前の或る日の思い出である。

一九六二、二、二〇

新卒業生におくる言葉

教授 海塩 義男

近年における畜産の進展は誰が何と云おうとも熾然たる事実であります。日本農業の大きな転換期に当って畜産のもつ役割は極めて重要であって単なるブームなどと異なるものであり世間一般の所謂ブームと同一視してはなりません。この気運を十分に伸ばして畜産を確固たるものにしなければなりません。それはわれわれにかせられた責任であります。線香花火のように消えるものであってはならない。このときに当って新卒業生を多数送り出すことはわれわれ畜産に關係をもつものとして期待は極めて大であり新卒業生諸君は必ずやこれにこたえ

てくれることと思います。

学園を去って実社会に一步をふみ出せばそこには今迄と異った世界がありそれは諸君を驚かすでしょう。

大学は就職の斡旋所ではない。学問の最高の府であるとは云うでしょう。まことにその通りであります。ことにわが東京農大は由来自営を目的としてサラリーマンになることなどは問題外とされてきたようです。しかし時代の流は、世相は、環境は急速な変転をきていますので皆が皆右のようなよき時代の恩恵に浴することができなくなつて来たことも見のがすことはできません。学校を出たらすぐ就職と云う関門にぶつかると人が多くなりました。

自営をするにしても就職するにしてもこれは一生の自分の運命を定めるスタートであることに変わりはありません。諸君は既に充分の考慮の上このスタートを切られたことと思います。

変な例えですがこれは娘が嫁入りするのと同じ心境であると思います。どうか一度これと定めたら目的に向つて最善の努力をしていただきたい。

がこれをお座りのものと聞き流さず何か心の角に止めるものがあれば幸に思います。

学生生活も昔と異り近来は社会とのつながりもアルバイトなどを通してかなり切近してきていると思いますがそれでも一方学生であると言ふ意識のもとに働いている時といざこれが本命であるとして働く場合とでは大変な違があると考えます。われわれの学生時代は幸か不幸かそのような環境になく全く隔離された学生生活しか知りませんでした。その点諸君は或る点では得をしているかも知れません。

とまれ今後は諸君も学生生活を離れるわけですが社会に出ても学生生活のよいところは忘れずにこれを心のどこかに持っていたいものです。それは社会に出ればお互に商買敵となることもあるでしょう。しかし畜友会と云う一つの結びつきを考へての相互関係は全然の他人とは違つた関係にあるべきでお互の足りないところはいづでも心おきなく助け合ふことと思ひます。全国の公私大学を通じて畜産学科学生の数は本学が断然トップを切っています。諸君はこの力を充分に認識すべきである。孤立して

はいけない。頼りすぎてもいけない。お互いに力を合せて進もうではないか。しかしせつばつまつた時には何時でも飛び込む「ふところ」を、相談すべき先輩を、同輩を思い出して勇気づけ中道にしてくづけるようなことがないようにしたいものであります。

新卒業生諸君の前途を祝しその御健闘を祈つて筆を擱きます。

チーズの味

助教 鬼原新之丞

我国でも最近では相当チーズが食べられる様になつたが欧米では「チーズのない食事は握りしめない握手のようなものだ」と言う言葉がある程豊かな味を持ち栄養に豊富である事で日常の生活と切つても切れない密接な関係を物語つておりなくてはならぬものになつてゐる。

チーズが食品としてこんなに愛される様になつたのはかなり昔の事で古代アラビヤの民話に砂漠の隊商が羊の皮ぶくろに牛乳をつめて旅をしていた所ある日その牛乳を飲もうとあけて見たら牛乳は姿を消し

て代りに白いかたまりが入つていた。かけがえのない食物なので捨てるわけには行かずおそろおそろ食べて見たところすばらしい味であつた。ラクダの背にゆられてゐる間に自然に生れたチーズの元祖は以後欧米に伝えられて現在では独特の風味を持つ多種類のチーズが出来世界中で約五〇〇の多くを算える事が出来る。我国ではひどくすばらしい味の事を醍醐味と云うが八三〇年前、後鳥羽天皇の時代醍醐と言ふものが作られた。これは今日のチーズに近いものでその味が如何に珍重されたか想像以上のものがある。

牛乳からクリームを取つたあとの脱脂乳を乳酸醗酵で固めてカッテージチーズを造るがこれがおそらく最も古いチーズの作り方であつたと考えられる。それから哺乳中の仔牛などの第四胃の粘膜に牛乳を固める物質がある事を知り今日では酵素レンニンであることがわかりその製剤をレンネットと呼んでゐる。今日多くのチーズはレンネットで牛乳を固めて造る。そしてこれを醗酵熟成させると始めて味の良いものが出来る。そのうまい味の中でも、もっとも優れた風味のものが最初作られたのは今のフラ

ンスの一地方であつたと伝えられるロックフォール地方で作られたロックフォールチーズと言われている。これはロックフォールと云ふ青カビが繁殖して良い風味が出る同種類のものイギリスのシュルトンチーズやイタリアのゴルゴンゾラチーズなど有名である。ロックフォールチーズは羊乳を本来原料とするものであるが牛乳で作つたものは一般にブルーチーズと呼んでゐる。

山羊乳は一種の臭気があるがロックフォールチーズを作ると臭気が取れて良い風味のものが出る。チーズの味の発生はカビだけでなく各種乳酸菌が関係してゐる。更に美味でチーズの王様と呼ばれてゐるものにスイスのエンメンタルチーズがあるこれはプロピオン酸菌の作用によるもので内部に丸い孔が多数出来るこれを「眼」と称しこのチーズの特長である。微生物の作用が如何に重要であるか今更のよう感じられる。最近日本で食べられているのはプロセスチーズと言つて幾種類かの熟成チーズを混合して作り本場に美味とは言えない。味噌や漬物の風味になれてゐる日本人には今だ本場のチーズの味を知らない人が大部分である。チーズは蛋白質脂肪ビタミン

畜産ブームと畜産学生 の心構え

教授 鈴木 正三

カルシウム等を豊富に含んでゐるばかりでなく熟成の結果きわめて消化が良く食品中では王様であろう。昨年の我国のチーズの消費は一人当たり四〇gと云われている。これはマッチ箱より少しものである、更に多く食する様にする為には日本人の嗜好に適した独特のチーズを作る事が必要であると考へる。

畜産ブームの昨今である。年間の国民所得一人当たり二〇〇ドルを境としてこれを越えると動物性食品の畜産物の消費が増大し食生活構造な国民所得の増大と共に炭水化物の米穀食から蛋白質の畜産食品とビタミンの園芸食品に移行するといふことが外国の本にのつてゐた。日本では既に昭和三十一年に一人当たりの国民所得は二二六ドルに達し、その後三五年、三六年には三〇〇ドルに達してゐるので、畜産食品の需要は増大し、畜産ブームの現象は当然のことである。なわち畜産ブームの直因は国民所得

水準の向上にもなう当然の帰結であって終戦後の日本のあらゆる産業経済の復興による国民経済生活の安定と因果をもつもの考える。そしてこの現象は今後とも世界における大きい経済変動のない限り続くであろう。具体的に一〇年後における所得倍増論を唱える池田内閣の主張が波打つ限りなおさらこの期待をもつて進んでよいと考える。

ところで斯様な畜産情勢下において、現在の大学の畜産教育を受ける学生はいつまでもいまの様な心構えのままではよいであらうか。余りにも畜産学徒には輝かしい将来が手を広げて待ち受けているので、すべての面で安易なもののみむさぼり、外廓だけ整った内容のみでない生活の後卒業して職場に就く。いや卒業しないうちに大学最終学年の春頃からは実習、見習と称して会社、団体の現場に行く。四年次学生は更に角として極端な者は三年次の秋頃から将来を特約して色々の機関に吸引されて行く。斯様にして何れも学生は落着かず講義、実験、実習の学業をおろそかにし、中には全くこれらを放り捨てて職業に急ぐ。そしてこれを正しい技術教育の姿と誤認している。

拓に最大の努力を払うべきである。

なぜ畜産が、それ程期待され、わが国農業構造発展の有力路線となつたかを考えてみる必要がある。

それは稀れにみる経済成長率を背景とする国民所得の充実が、近代生活というムードの中で、消費性向に大きな変更がもたらされたからである。

近代生活は、近代食生活を足場として築かれていく、この動向の中で、今まで振りむきもしなかった大企業が、大資本が、畜産を対象とする系列化に、大きな動きをみせつつあることをみても、如何に畜産の現状と将来における産業的期待が大きいかを、畜産経営という生産の場しかみつめない、また、前時代的、副業的生産という認識の中に閉じてこめられていた畜産が、今日ほど脚光を浴びた理由をしみじみと考えようではないか。

レジャーやインスタントムードが、国民の日常生活に、常識的となつた今日、料理をしない食事、ハムだ、ベーコンだ、プロイラーだ、加工卵だ、マヨネーズだ等々、それに近代人の日常生活の一部だ、いやそればかりではない水や御茶の代りに飲む

る。このことはひとり畜産教育のみならず技術教育の総ての場合同様の現象と考へるが、大いに注意せねばならぬことである。大学の教育計画、学科課程からすれば四年間に履修せねばならぬより沢山の内容をもっている筈である。毎日の教室、実験室での所定の訓練には勿論のこと、研究に当てる時間にはそれほど余裕はない筈である。将来の關係ある。または直結する職場に直走することは適当でないと思へる。教室外、実験室外の時間こそ本を読み文献をあまり大いに見識を高め、豊富な常識を涵養すべきである。本を読まぬ常識の不足な細々とした畜産技術の大成は到底望めない。

畜産学生は大いに心していただきたい。一時も早く将来の職種に通ずる現場へ急ぐ学生諸君の気持は分るが、うすつべらな細い技術者は会社機関では望んでいないと思ふ。諸君はやはり将来、指導者の立場につき身分であるからゆつくり学生時代は大学に規定された学業を受け、研究してゆつたりとした常識豊富な技術者として学窓を巣立っていただきたい。

学費補填のためのアルバイトの必要性は了解できるが、それは僅かな事例であつて牛乳、一日三合ドリンクとまではいないがぐんぐんはね上る消費費は、畜産の大きな期待である。

ところが、畜産を生産の場から眺めるとき、以上の消費増大に、はたして対応しているであろうか、大規模経営の有利性を説く、多くの技術者はあつても、個別の篤農的技術を旗頭として、共進会的技術に終始しているものが多いようでは論外である。例えば畜産の協業化、企業化、機械化生産となると、それは畜産技術者の關係外であると平然たりうることの矛盾さえみられている。

新しい動向へは新しい技術構造で対応して行かなければ、折角のチャンスも水泡に期してしまふであろう。否やそればかりではない、逆に農業技術から閉出しを食うおそれなしとしない。

畜産にかける夢、それは単なる夢ではない、農業を産業化へ、企業化へ、そして近代食生活との結合を高めるための畜産の夢でなくてはならない。

斯様な種類のアルバイトの蔭での学外現場実習は吟味せざるを得ない。兎角新制大学の教育批判が漸くはげしくなっている昨今であり、我々畜産学徒は畜産ブームに乗つた昨今である。世は一時も早く畜産生産者としての諸君を求めていることと思うが互に自重して大成を希う次第である。

畜産の夢をのせて

畜産経営研究室

砂川 泰夫

農業の近代化、所得均衡の有力な一員として、また将来への成長発展生産部門とし上つた畜産は、現行農作目録、最右翼に列して、殊更大きな期待がもたれるようになった。

これがため、全国の畜産経営者も、関係者も、この秋こそ、畜産を振興させ、畜産による自立化、畜産による食生活の改造等々に、強い意欲と情熱を、そして更には大きな夢をのせながら、慣行農業構造の改善に、力づく畜産構造確立のため、それに見合う新技術を、近代機械化生産方式を、経営技術を追求めながら、新しい畜産の開

香料

アンドレスハム株式会社
梶 政 司

真新しいことでもありませんが肉加工に於ける香料の有効的な使い方でも申しませうか、近年我国の食肉加工工業は超飛躍的な発展をとげたと思つて居ります。それに伴つて加工技術も大きく進歩し得たのではないかと思ひます。

然し乍らこの進歩発展の中に於きまして今だにその歩調に合し得ないものが幾つかあるものと思ひます。その中で私の考へて重要なものの一つとして香料の問題を上げてみました。従来の考へでなく食肉加工の香料といふとその殆んどが天然のスパイスと考えられて来ました。ようやく最近になって人工スパイスがメーカーによって生産されそれを各食肉メーカーが使って居るものと思つて居りますがこれらの両スパイスにそれぞれ一長一短があるわけですからそれと申しますのは例えば天然スパイスに於きましては風味、香り等が良好であり使用法が簡単であることなどが上げられ

ます。一方短所と致しましては各種香料の有持する色がその使用する量によってそのまま製品に移行すること又粉末であるがゆえにプレス・ハム類などに添加すれば多少なりともハムの重要ポイントである結着を阻害すること又、細菌が品物によっては可成り多いこと保存法が人工スパイスに比較して細心の注意を要することなどが上げられます。

一方人工スパイスに於きましては天然スパイスにある様な色素の製品への移行、製品の結着弾力の阻害細菌の含有、保存性等の点に於て天然のスパイスよりすぐれて居ります。短所と致しましてはエッセンスであるがために多少なりとも添加製品に薬品臭を与えること液体スパイスの場合に倍率が高いために稀釈せねばならぬこととその場合水に不溶性なるがために特別の稀釈液を必要として使い難いことなどが上げられます。

風味の点に於きましては天然に比べて数段の差がある様に思われます。以上述べました旨にそれぞれの長所短所がありますゆえ実際に使用するに当りましては両者の併用と云うことが一番望ましい使用法と申せ

ましよう。現在のメーカーは単用の方法を取って居る様でありますが近い将来に於ては前述致しました様な使用傾向に進行すると思ひます。

最後に技術面から離れまして食肉加工の将来の動向とでも申しましようか、その点についてちょっと触れてみたいと思ひます。

従来考えでは食肉加工と申しますとハム、ソーセージ、ベーコンのみの製造と云う観念が強かった旨に思われます、然しこの云った観念がいつまでも業界に存在するならば近い将来に於ては日本の食肉加工業は大きく後退するのではないかと思ひます。それと申しますのも近年ますます激増する畜肉消費景気におおられた大手水産メーカーがすでに上陸を開始し終了しつつ畜肉製品の量産態勢に着々とその足固めを完了しつつあるからであります。こう云った情勢下にある小資本の畜肉メーカーはいかに進むべきかと云うことがこれからの畜肉メーカーの悩むべき事柄ではないでしょうか。

世界平和の理想への実現へ

畜産科四年 広瀬健次郎

現在日本には多くの批評家と称する人種がいる。特定なものを批評するのは別として、一般的なものを批評する人も数多い。彼達の多くは我々と年代を異にしている。その彼達が我々の行動を基にして我々を色々批評する。多くは現代の青年に夢が無いと云う。大きな希望を持たないと云う。そしてこれは一般的、最大公約数的なものである。しかし彼らはそれ以外の青年、云い換えれば理想と希望を持って居る我々に對して、なんら深入りしようとしなない。私は大きな希望と理想を持っている。多くの友達も同様だ。彼達は級以外でのつき合をして居る人達だ。畜産学科の人もいるが多くの他の学科である。私は彼等とよくこれらの事を話し、未来を夢見、考えようとしている。実に楽しい。それぞれ人によって考えの相違はあるが、しかし大いなる希望と理想を持っている事は同一である。ところが畜産学科、主に四年生であるが、彼達

と話をするとなにか違つたものを感じる。あまりにも現実的な、時代まかせな、青年らしくないものだ。私はよく自分の夢を彼達に話すとなにか馬鹿にした様な、それは現在とあまりにも飛離れた様な考えに思えるのである。う考えを、まったく無視あるいは否定している様に思える。この彼達の考えをいけなしいとは云わない。現実を觀る事は必要だ。しかし未来を理想を夢見る気持ちが我々青年になくてよいものだろうか、大学生であるならば最大公約数的な考え方をせず、もっと異つた考ふ方、すなわち大きな理想と希望を持つべきだ。一年の時、社会学で「学生と社会人との相違」という様なレポートを書いた覚えがある。その時に学年はこれからなんにでもなれる可能性のあるものであり、社会人はその範囲は非常にせまい。あるいわすでに固定され、他のものになれる可能性のないものであるとこれが大切な事だと思ふ。大学生がその可能性を十分に活用すべきものだ。社会人となり、ある基礎が出来た時、他の理想を想いそれに向って行こうとしても、それは出来ない。一生狭い範囲で生活しなくてはならない為理想への活動を期待する事は出来ない。

い。だからより一層学生時代に大きな理想を持ち、それに近づくこととする努力が必要なのだ。理想を単に理想のみで終らせないために、私が農大に入ったのも一つ理想と希望への目的があつたためだ。それは現在日本に於て、いや世界に於ても農産物の過剩を云っている。アメリカでは麦を焼き、ブラジルではコーヒー豆を海に投げた。東海アジアに於てすら米の生産過剰で輸出することにやっきになっている。その他の国でも同様な事がある。しかし、これは経済的な面。すなわちある価格を維持する面であつて居る。しかし日本国内に於て米の飯を食いたくても食えない人々が居る事を知っているだろう。その日暮しの代用食で栄養失調の人々もいる。主食をさえ満足に食べる事が出来ない。世界に於ても同様で、餓死する人々さえいる。特に低開発国で、アメリカでも日々のパンに満足にありつけない人も居る。これでも本場に日本の、世界の農産物は生産過剰と云えるのだろうか。すべての人々が満足するだけ食べ進んではより良いものを食べ必要量のカロリーと栄養素を取る。それでも余つた時、これを真の生産過剰と云うべきではないか。これはか

ら考えたら現在の農産物はまだまだ足りない。衣食足つて礼節を知ることなく、世界中の人々がその食生活が充ちる事によつて世界平和も訪ずれるものだ。すべてが生る喜びと幸福を知つた時に。我々農業に広く従事しようと思ふ者は、この様な重大な使命がある。デンマーク人は世界の畜産は我々がリードしていると豪語し、デンマーク人なくして世界の畜産無しというあつぱれな自信と気概がある。我々日本人もこれらの農業総ては我々日本人にまかせせる。我々無くして農業なし、我々が世界に平和をもたらさしめる。ケネディやフルシチョフのみが世界平和を創るのではない、ましてや武力が平和を創造するなどありえないと世界に向って呼ばう。そして行動を起すのだ、この畜産学科の学生も農大生のすべてもその一翼を荷ない、世界の平和の使徒、農業人と共にあゆもうではないか、現在は世界中が我々の舞台だ。一人日本にのみ、ちぢこむことなく、もっと大きく踏み出すうではないか。

ダーウィニズムと 今日的課題

畜産四年 滝川 昌宏

私はなにを書こうかと迷ったあげく、このような題を自ら選んだ。昨年の第一号において非難があった点は重々心得ていたつもりであるが、「何か異色のものを」とT君に云われて筆をとる気になった。また農大新聞の今年一年間の企画「ダーウィンの進化論とその発展」の提案者でもあるので私の思っていることを主として諸先生方の本を参考にしながら記してみることとする。

石井氏は「日本のダーウィニズム」(農大新聞三七三号)において『今後わが国のダーウィニズムおよび進化論はミチュリン運動と共に大きく発展してゆくであろう。ダーウィニズム・ミチュリン学説は日本の農業と生物学に関し、輝かしい展望と夢を私たちに与えてくれる』と結んでい。

Charles Darwin は彼の著 "Variation in Animals and Plants under Domestication".

畜改良の中における選抜の意義について」において『子は親に似る命題は、必ずしも一般的なものではない。殊に、ヘリタビリティの低いところの形質に対しては、あまり意味をもたない。したがって、畜種家は表現型が遺伝子型と必ずしも等しいことを理解した。そして極端な場合においては、畜種家をして、遺伝の原理(滝川注)メンデル式遺伝が実際の畜種においては何等妥当性のない、信頼のおけないものであるかの如き考えに至らせ、遺伝と育種とはあたかも異なる分野であるが如く信じさせるに至った。しかしわれわれが育種対象とする経済形質は多くの場合、ヘリタビリティがかなり低い、または、せいぜい中等のヘリタビリティを示す形質であって、その表現は遺伝子型のみによって決定されるものではなく、体内外における環境作用によって大いに変更を受ける性質のものであることを理解すれば、問題は起らない』やまた『現在の研究者の関心は、選抜の結果を左右する要素間の複雑な相互作用の解明とそれらの数量的取扱いに向けられている。そしてそれらの最終的目的の達成のためには、それぞれの形質について生理学的、

catation. 家畜・栽培植物の変異(一八六八)において一、飼犬・飼猫、二、馬・野馬、三、豚・牛・羊・山羊、四、家兎、七、家鶏、八、家鴨・七面鳥その他と家畜を細かく分けてその遺伝・変異とくに獲得形質の点につき詳述している。ここに日本の家畜のことが入っているので紹介してみよう。『以前(英国の)動物園に出品されたことのある日本豚 Japan pig (Gray 氏の S. pliciceps) はその頭の短いこと、額及び鼻の広いこと、肉性の耳の大きいこと、皮膚に深い溝のあることなど外観は誠に途轍もない。……顔に溝があるばかりか、他のところよりか硬い皮膚には厚い皺があつて、まるで印度犀にある皮膚板のように肩や臀にかかっている。その色は黒く、脚は白く、実際遺伝もする。ずっと以前から飼養されていたことは殆んど疑いあるまい。そのことは又、仔に縦の縞のないことからも推断してよからうと思ふのである。何となれば、そのことは野生の状態ならば猪属と、それに近い属のものに含まれる種全部に共通な性質だからだ。Dr. Gray は、この動物の頭蓋骨を記載しているが、それは異種と見做されているのみか、猪属 Sus の

異なった部類におかれるものとしている。然し乍ら、ナタジウスは、全群を注意深く研究した上で、断然その頭骨が、すべて根本的にインディクス型の中、耳の短い支那品種に全くよく似てると述べている。従つてナタジウスは日本豚を単にインディクス種の一飼育変種と考えているのであつてそれが正しいなら、飼育ということでは達せられる最大限の改変の驚くべき例である』(永野、篠遠訳)

芝田清吾先生も「新畜産学原論」の中で『ダーウィンにより進化論を実証的に大成し、種概念は遂に確立するに至った。彼の進化論は凡ての高等生物はより下等なる生物から次第に向上進化してきたものなどであり、遡れば生物から全体の遠祖は皆単純なる単細胞に帰一するところであつて、かかる進化の原因は生物の増殖力が過大なるに食糧は不足するから、そこに生きんが為の競争を生じ、生存に適する変異を有するもののみ勝者として現在まで生き残り得たと解釈したのである。』と評価しておられる。

また山田行雄先生(国立遺伝研)は「ダーウィン進化論百年記念論集」の中の「家

生化学的背景が明らかにされることも、もちろん必要であらう。……

…選抜は集中的に保有される遺伝的変異の利用であるという考えには何等の変更もなく、この意味で Darwin の自然淘汰説及び、それを近代遺伝学を基礎として量的に表わした Fisher の自然淘汰の基本定理が家畜における進化においても、遺伝子型の差別的繁殖の過程が、一方で人為的であることと他方で自然の作用であることのちがいを除いて、等しく適用するべきであることには何等変更を加えるべきものはない』と述べておられる。

また羽部義孝先生は「ダーウィニズムと家畜の育種改良」(「ダーウィニズムと現代の諸科学—進化論百年記念—」収録)において和牛の改良の問題を、先生長年の研究の成果を獲得形質の観点から述べておられる。その中で『家畜発展の理論を顧みるに、雑種流行の結果、あらゆる家畜は頗る雑駁のものとなり、その経済性を低下させるに至つたので、家畜改良には形質の固定をしなければならぬと主張する Weickhein(1857), Mentzel(1859), Justinius(1884) 等の Konstanstheorie 派と、優

秀な個体でしかも張力遺伝をなすものを主体として繁殖すべきであると主張する Neptusius(1872) と Settegast(1875) 等の Potentheorie 派とが相次いで現れたが丁度この論戦の初期にダーウィンの「種の起原」が公けにされ、進化論の発表となつたのである。当時家畜改良の実験家の多くはダーウィン説に賛意を表したようであつたが、その後は必ずしもそうでなくなつた。たゞ一定のセレクションによつて代を重ねるに従つて、その家畜の形質はセレクションの方向に移つて行くというダーウィンの考えは卓見であつて、今日尙正しいということが立証されている。』

以上、上げた例はそれらの中のわずかに過ぎず、また主として畜産方面にそれを絞つた。まだリヒャルト・レヴィンソン著「動物社会の歴史」(加茂儀一・小宮山量平訳)や、最近出版された亀井健三訳、H・フェイギン著「遺伝学の根本問題モスクワ大学教授著」の中には紹介してみたいことが多く山積されている。

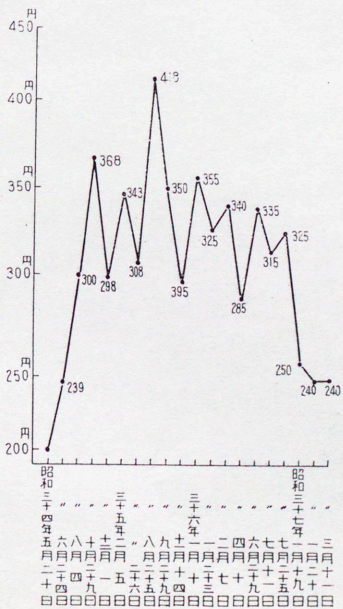
今それらの問題について触れるのは紙数の関係もあるので除くが、「日本農業生物研究会」について触れてみたい。というの

は私が二月十七日の第二回総会を傍聴したのであるが、残念ながら畜産方面の研究発表はなかった。しかし丸一年しかたっていないこの研究会であるが、農学の数多くある学会方面の中で、方法論を曲りなりにも確立している会である。その方法は自然弁証法的方法論で体系づけられておりながらその内容はリヴィエト、諸外国の追実験にすぎず、まだ日本独自の自然弁証法的方法論は体系づけられていないといえよう。この正しいことについては、「ふじみの第一号」で触れたので再記することは止める。今、日本の農業は転換期を迎えているが「業」と結びついた「学」を体系づけることも一つの課題であるといえよう。その意味から最初に引用した石井氏の言はわれわれに一つの示唆を与えているといえよう。なお小生の不勉強は覆い隠すことは出来ず諸先生、同学諸氏の注言と批判を期待してゐる。

豚でも発憤

産肉能力がなんだの、飼料問題がかんだのと言ったところで、貧乏畜産学科生には縁がないのだが肉食生活、理論と実際の隔りを、こんなに痛切に感じることは無いもんだ。ところがこの表を見て下さいな、豚肉は実際に安いですよ。それも屠場に限っての話。阿野君、この前のかけ声よりも勇ましく、思い切って安い肉が食べられる様にタノンマッセ。最近の娘さんは青白いインテリは好かんそうだから。

最近数年間豚枝の肉取引価格の推移
芝浦・白上 1kg当



学 界 便 り

日本畜産学会本学で開催さる

昭和三十七年度日本畜産学会大会は、四月七・八の両日本学に於いて開催された。これは昨年十月三十日、やはり本学で行なわれた学会の関東支部大会の大会運営などの実績を高く評価され、決定したもので、日本畜産学の大集成たる学会が本学で行なわれることは畜産学科の対学内、対学外両面の認識と評価とを与えられることとなり、また我々自身の意識の向上にとって、またとないよい機会であって誠に喜ばしい。

大会委員長には、本学科海塩義男教授があたりられ、畜産学科職員学生の多数が、進行に携わった。昨年同様八部門に分かれ、一般研究発表が五つの会場で行なわれたが、本学関係の研究発表は次の通りである。

◎畜産部門

○「抗Q凝集素に関する研究」

二報「豚正常血清中の抗Q凝集素の出現頻度とその性状について」
鈴木正三教授、○田中一栄講師、渡辺誠喜助手、勝連紘一郎(学生)
三報「抗Q凝集素作成に関する実験」

鈴木正三、田中一栄、渡辺誠喜、勝連紘一郎
○「鶏のトカラ在来種と白色レグホン種の血清、生物学的関係」
一報「両者の血清学的関係について」
佐々木清綱教授(日大)、鈴木正三、○渡辺誠喜、井孝義(学生)

◎繁殖部門

○「家兎被膜糞が雛の成育に及ぼす影響」
二報「雄雛の成熟段階に対する考察」
○一戸健司講師、平林忠教授、箕口重義(学生)、石島芳郎(学生)
中谷裕之(学生)

◎飼養部門

○「肉豚育成時の飼料給与方法に就いて」

(粉餌不断給与と練餌制限給与の比較試験) ○伊藤澄磨助手

◎畜産物利用部門

○「鶏肉々漿蛋白の貯蔵加工中に於ける性質の変化に関する研究」
三報「液体燻製時における変化について」
鬼原新之丞助教授、○相川勝信助手

(氏名の上の○印は発表者を示す)

日本家畜血液型研究協議会

日本家畜血液型研究協議会総会及び学術講演は四月九日、養賢堂向上会館に於いて行なわれた。学術講演は次の通り。

(一)日本における血液型研究について 科学警察研究所長古畑種基
(二)鶏の血液型研究の現状について 北海道大学教授 松本久喜

この他四月十日には、日本万国国家禽学会が開催され、また家畜繁殖研究会総会と研究会も、追って開催される。

☆獣医畜産学会は四月三、四日の両日、東京大学農学部で開かれた当日の特別講演は

「犬の伝染性肝炎に関する研究」

東大農学部細菌学教室 小西信一郎氏

☆農芸化学学会は四月の十七、二十八、二十九日、仙台市の東北大学農学部で行なわれる。前月二日間は、総会、特別講演である。「炭素七員環状芳香族トロピリウム関連化合物化学」

野副鉄男氏 他一題

農村の非民主性と経済構造

畜産三年 伊 沢 宏 爾

現代われわれが生活している日本の社会は、今や封建社会ではなからう。明治維新と共にわれわれの祖先がいたためつけられた封建制は撤廃されたはずであった。しかし、われわれはこの制限から解放されても本当の意味で近代的人間になりえなかった。すなわち依然として封建的な色彩をぬぐいさることができなかったのである。これはなぜであろうか。可様に問うことは農村に關するばあい、特に重要であるように思われるのである。日本農村こそ日本社会の中でも殊に「封建的」であるといわれるからである。われわれは農村の中で自分の思い考えを自由に吐くことのできない人々の多いことをよく知っているだろう。正當な求めもできない非民主的な一部のいわゆる顔役達に支配されそれに自分の心に反して盲従させられている人々が少なくないことも知っている。そこで民主主義の發展は頑強にはばまれてゐる。われわれが民主化を人類發展の大道を信じて、その達成に努力しようとするならば、この様な民主化に反する根源とその實際を明らかにし、それを克服する手段を考えなければならぬと思う。そしてこの課題は、その人口が今もなお日本全人口の半ばを占めている農村の民主化なくして日本国の民主化が成しとげられないとすれば、ただ農村だけの問題でなく全国的課題であると考える。ところでこの課題のために、われわれが日本農村の

非民主性を問うとき、われわれはその實際を究明する前にそれがよって立つ基礎を明らかにしなければならぬ。非民主的な社会の實際とそこで見られる特質はその前提的基礎をなす農村の経済構造の理解なしには認識しがたいと考える。農村の経済構造の問題点を指摘すれば第一に過小農的家族経営をあげよう。日本の農家の経営規模は戦前は約一町であり六十〜七十%が一町以下であった。また、現在は一戸平均八反を割り約七十五%が一町以下の小経営である。そしてこの小農が家族労働力によっているのである。もちろん雇用労働力が使われないわけではないが、それは農繁期の補充的意味であって、大農経営が発展せず資本主義的な農業の發展をみなかった。日本の農業は一貫して家族経営に立脚していたのである。しかし、われわれがこれを過小農というのはその半ば以上が兼農であって、「自分の農業経営で家族を養う」という小農業の条件を満足しないからであろう。小農以下ということにならうか。

ここに日本農村の家族の重要性と、小農の欠独立性それにもとづく上層農家への従属性とが生れてくるのである。第二に経営規模の問題は土地所有の問題すなわち従来の日本農村の大きな柱をなしてきた小作関係とむすびつけて考える必要がある。日本農村の小作小作農の構成は戦前は小作が約三十%、小自作をも含むと約五十%

感情、社会的地位などの偶然的なものを克服することである。(もって生まれたものと言ったがくせや社会的地位などは正確に言えば問題があろうが、ごく一般的な場合を考えることにする) 自分がもって生まれたものと闘うこと、そしてその中からかちとるものすなわちひとまねでなく、自分の力で闘い通しその中こそ本當の自分は存在し、そういう自分をつかむこと、これらをまとめたのが個性である」と言っている。すなわち氏に言わせれば個性とは『自己との闘い』であるということである。以上が講演のたいたいの内容である。これについての感想をつぎに書きますが、この様なことについて充分考え、友達はもちろん、いろいろの人の話しをきき、自分の偏見やあやまりをなくする様にお互いに努めよう。ひとから借りた知識でなく、本當の自分のものとしていくようにしよう！
自己の感情と闘う！

AS君の感想V

どんな立派な人間だと尊敬されている人でも、あるいは、俺の様に弱い、取るにたらない人間も、人間であることは変りない。ということは人間であるという点においていかなる人間も平等であるから、という意味のことを述べられた心が暖まる思いがした。特に自分の様に欠点だけで弱い人間があるだろうかと、いつもなげなく思っていたためでしょうか。しかし、今まで自分のように弱い、取るにたらないという強力な劣等感が、俺だって人間だ！(俺もやりさえすれば出来る)という人間としてのプライドに変えてくれた、うれしかった。大きな喜びを勝ち得た。そして、こう思った。くだらない劣等感に悩むよりは、たとえわずかでも、ほんのわずかでも建設的なことを行おう！闘おう！自分の内部のおくれ

を克服するために」と。

AN君はV

楽観的に社会の大きな流れに流されてきた俺にとって個性とは、自分のもって生れたものを征服することであるとやられてなると思う情けない状態である。俺は感じたことは人間として平等である以上、その個性たるものにかかわらず個人に当たる社会の風圧は等しいとみてよい。その社会の強烈な風圧に対する忍耐力、抵抗力にたよるものに個性の形成より重点をおきたい。生涯を終るには妥協、抵抗、打破などの言葉で表られる様にこの資本主義においては策略社会と言っても過言ではあるまい。この個性について一言で言えることは、個性などと論じている時間があれば、世間という実体にとけ込んで、その立身出世の方法を学びたい。

AK君はV

自分の力で自分を追求するありのままの自己と闘い、もって生れた自己を越えること、そしてそこに本當の自己(個性)というものが見い出される。個性の発見とはかくもむずかしいものか、日常われわれの生活を省みてみると自己に本當に忠実であるかと疑問に思う。

誰にも、あらゆる何者にも束縛されず自己の意志ですべてを決定する。確かによいことであるが現代の社会を見るとき不可能に近いことを知る。自己を静かに省み、個性を追求する時間が少ない様な気がある、われわれは社会的に外部に働きかけると共に自己の内部を追求し、自己と闘い、本當の自己発見につとめるべきだと思う。

AG君はV

先ず個性の概念を明らかにしている点が問題である。自分として

は個性に対する考え方が定まっていけない。ただ言えることは個性という問題に対し学者風なつまり文学者としての個性論にすぎない。彼の通りにすれば人間の個性は真剣に自己を考えた人のみ、すなわち、哲学者、文学者の独占的な如き感がある。今言えることはそんな主観的なものでなく、個性とはあくまでも客観的なものだと思う。自己と闘ったり征服したりすることも一部かも知れないが、すべてでないことは言える。また、個性とはその存在に意義があるのではなく、個性が生へ関連してのみ存在価値があるのだ。すなわち、個性は人間の生きる過程を言うのであり、その生き方の方法論が個性なのだと思う。

以上くどくど書いてきたが何回も言うように、われわれ学生の生活が、学生本来のあるべき姿から遠ざかっていく様に思えて仕方がない。貴重なはずの日々がぼんやり過ごしてしまっている様にさえ思うが諸君はどうお思いのことでしょう。

私はより有意義な学生生活を、人生を送りたいと思っている。誰だってそう思っているはずだ。それがためにはダンスを楽しむパチンコを、あるいはマージャンを楽しむこともおおいに良いと思う。しかし程度というものがある。ダンスや遊びが現実の苦しみから逃避として、あるいは将来を思うときの現実と理想の違いからくるやるせない気持をまぎらすための手段であってはいけないと思う。たとえわれわれの行く手に大きな壁があるうと、当たってただけてみよ。そこから解決の方法が生まれてくるかもしれない。その場をのがれたとしてもその問題を解決しないかぎり前に進まないのである。

私は一人で考えるよりも、一人で思い、悩むよりも沢山の人が一

または、中枢異状に伴って起る一種の不随筋動作で全身の、伸筋の収縮を伴った一種の呼吸運動としてあらわれる。」とにかく口だけ大きくあけてやるのと、両手をあげて、ふんぞりかえるの、口の中で、もぐもぐやる上品型（これを俗に欠伸を噛み殺すと言う）さらに手を当てる等、表情は、さまざま、特に人では、その表情をするのに、終脳梗ことに、腺条体が重要な働きをもっていると考えられています。東大教授の時実氏は「欠伸は、咬筋をひきのばすことによって、筋紡錘から、ある種の信号を網様体を送り、そこから大脳皮質に伝わって、意識をはっきりさせる働きをする。」故に「欠伸は、頭をすっきりさせるための、運動の一つだ」と言っています。動物に、おいても犬や猫が、今まで寝っ伏して起きて立った時、全身を伸すと共にあくびをしています。人と動物のそれでは、多少表情という面において違いますが、作用それ自身では、変わらないうえ。これらの生理現象なるものは、人等では、相当融通性を、もっている、中国の醫康という人は、「僕は顔は、いつも半月は、洗わず、よほどむずむずせぬ限り風呂も御免こうむる。小便を催してもせいぜい我慢して、膀胱の中を、一回りさせてから出します。」欠伸は、がまんすることはできず、でかかったものは、意志をもって止めることは、できません。せいぜい口の中で噛み殺す程度で、これは途中でやめたのではなく、口を開けず欠伸したと言うべきです。生理学的にもすでに、呼吸中枢が呼吸運動を支配すること、および中枢は、血液成分の変化によって刺激されることが、証明されている点からも、欠伸は血液中の炭酸ガス、その他の疲労物質、細菌、毒素等が、刺激剤として上位脳を刺激して、あくびは、生起すると言えそうです。それと同時に、無意識のうちに頭を、はっきり

つの問題に意見を出しあってその中で正しいものの方や考え方を知らうと思つてこの様な試みをしてみた。十人十色と言う如くさまざまな意見がごらんのように出てくる。一人でどんなに考えてもわからないことがお互いの話し合いによって知ることができるといふことをわかると思う。

ごくありふれた日常の会話の中からも皆で話し合うよこびを味わえるし、お互いの知識が広がるでしょう、諸君！自分一人でよくよせずに皆で考えお互いの向上のために話し合せる雰囲気を作れわれ一人一人の力で作らうではないか。方法はいろいろあるでしょうが、先ず話し合うこと、話し合える雰囲気を作らうではありませんか、よりよい学生生活を送るためにも、よりよい人生を送るためにも。

あくび礼賛

畜産三年 兵頭 勲

公の場での欠伸が、無作法の一つとされていくのはいかにも残念、諺に「寒き小便ひたるさ欠伸」「欠伸が出そうな長語」というように使われていますが、一体欠伸とは、どんな時に出るのでしよう。日常誰しも経験していることで、眠気を催した時、物事に倦み疲れた時、つまらぬ演説、そして、講義などに、ことに出てくるようです。何故にでるのでしようか。もの本によると「血液中の酸素の不足により上位脳の貧血が起り反射的に、肺内に深く空気を吸入して、急に呼出す呼吸運動の一種である。」また、「中枢疲労

させようとする試みがあるのです。そして、意志的に、呼吸をとめても、欠伸は、容易にでてくる所から、あらゆる、状態の下で、身の安全と絶対的な意識のときに、でてくるものだということが、そして、欠伸が人からうつるといふことも、その時にはすでに欠伸をすべき飽和点に達していて、なにか一つの意志が押えていたのだと考えれば、理解できそうです。朝寝おきの悪い人起きてもしばらくぼんやりとしている時は、猫を見習い、大きな欠伸を全身でやり、それでも十分でない時は、腿部の筋肉を強く打ってみることで、寝むくなるかと、ひきを打って勉強したものだ、よく師から聞かれましたが、われわれは大いに欠伸を使ってやりたいものです。せっかく出たものですから無駄に噛み殺したりしないで、堂々と利用したいものです。

小さい妹

畜産二年 S

「おあちゃん、ただいま」元気な声である。毎日この声を聞いていながら少しもいやに聞えず、むしろ新鮮であった。この静かな郊外の家に鈴がなったようにすき通り、まわりのものをきまこまかくふるわせている。

「おかえりなさい、今日は早いね」「なにかない」とすぐ言う。これも毎日つかう言葉の順序なのである。「ハイ、おやつね、これをお兄さんといっしょにおたべなさい」という母の声に、小さいな女の子は、「お兄ちゃんまだ食べなかつたの、これみんなあた

のだといのになあ」と言う。こんなことを、となりで聞いていた兄は「ああ、腹がへった、早くもつといで」とさいそくする。フスマ越しにコタツの中でねそべっていた兄が、むっくりと起きあがった。「今日のおやつなんだい」「カレントとおせんべい」「お兄ちゃんいらぬわよね」「いるさ、おまえにみんやっちゃんのもつたないもんね」「けちんぼね。お兄ちゃんて」「今日は、なにかおもしろい事あったかい」と、「うん今日ね、男の子ったら、とてもおもしろかったわよ」「一口に菓子をはねながらなにかいだしそうである。兄は手を皿に伸ばし、ぐいっと菓子をかき取り、大づかみにつかむと、「お兄ちゃん、だめよ、そんなにいっぺんに、あたいのなくなっちゃう」兄は皿に手をもどし半分ほど、皿にこぼして苦笑した。小さな女の子は、手ばやく手を動かし、口元に入れていく。兄は、のんびりと、あいかわらず大づかみにとりながら、からかうように、少しづつ皿にもどして口に運んでいる。小さな手と大きなごつい手とが、白い皿の上で対称的に動きまわっている。両方ともなにも言わずに。すると、「お兄ちゃんて、毎日コタツに入っで、ごろごろしてんのね」「ばか言え、今日は、勉強がすんだんで休んでいるんだ。おまえみたいに学校の勉強だけしてんのとちがうんだぞ」「でもラジオ聞きながらしてるじゃない。そんなのないわ」「でもお兄ちゃんには、できるんだ。これは天才的じゃないとできないんだぞ」「天才的な人が浪人なんてしないわ」「ああそうですか、わかりました」

おどけた様子でかきこまり、そのまま口をもぐもぐさせはじめた。母が茶を持って入ってきた。「またけんかをしてんのね」目で笑いながら、あとは、なにも言わなかった。もうすぐ春である。こ

の家の中には、ひとあし先にこの小さな女の子が春を少しづつ運んでいるようだ。

無 題

畜産学科二年 千葉多美子

私は人に大変なじみにくい。人数も大勢はこわい。中学、高校を通じてなおきらない私の性格、二三人仲よしの友達ができることもほしくない。また他の友達と付合う際、仲よしがいる時といない時とは、私の心持はまるっきり変化する。他の友達が自分に好意を示してくれなくとも、仲よしの彼や彼女等に飛び込んで行けることが分かっているので、辛くもないし、意地悪な友達を恨む気持ちさえ起らない。私が冷たく扱われれば扱われるほど、彼や彼女等の存在が私にとって、より嬉しいものとなり私の安らかな憩いの場所となるのである。この異常とも見える彼等への頼り方を非難なさるであろう。あんな気持を持ってどうしてクラスにとけ込めようか。

「いいえ、違います。」「彼や彼女等があつてこそ（プラスαを含む。）恨みも起らないというような穏やかな心持が保てるので、決してクラスの人の交わりの障害とはならないはずである。彼等の存在の有無は私にとって欠くべからざるものである。「何んて、弱虫なんだろう。」と怒りも憂いもない、あるのは平安と感謝と隣みの世界に一瞬わが身を置いた時そして、そこより私を眺めた時発せられる言葉である。一日のうち、こんなに強くなれるのは数えるに足りない時間である。ということは、現にはら笑っている、しばらく

くすると泣きたくなるかもしれない。こんな私の方が今はまだまだ主役である。ゆえに、彼あるいは彼女等のいつとも異なる態度は、私を混乱させ、言い尽くせない苦しみ、悲しみへと私を追いやる。理性がいち早く姿を消す。何もかもまっくら。暖くなった彼等を見るか、あの世界の住人となるか。二つ以外に私の心は晴れないであろう。

あまりに、彼等に力を入れすぎたきらいが何かがわれる。が、まとめさせていただければ、ひとつの心樞が私を支えているので、安心して誰とでもお話ししたり、遊んだりすることができる。確信する。

私はクラスでも研究室でもよく笑う。肩のこらない笑いである、笑うからといって、みたくさんという話はずみもしない。私の唇がどうしたわけか、動かないので。

もう一年になろうとするのに、クラスの友達といつたい何の話があつたかと首をかしげるしまつである。「先週は何ページまでね。」「本当に休講。」あるいはノートを貸して上げる時、「責任持てないわよ。」「返される時、「字読めたかしら。」「こんな程度である。私は話のうちに入らないと思う。この、二言、三言の言葉のやり取りも席が前の友達に限られている。友達と呼んでよいのだろうか。

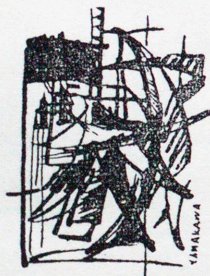
私の席の前後あるいは左右のかたまりから、それぞれ入り乱れて聞えてくる。私もいつしかひとつのかたまりの話に耳を傾むけ、思わず一緒に笑う時もある。それだけでなく、私も口をはさみたく思う時さえある。

研究室においても、私はみなさんの話を熱心に聞き、クラスと同

様、口をはさみたい時もある。が、押さえる方が多い、それでも人数が少なく何かの拍子で、閉じられていた唇がゆるみだすと次から次へと言葉が飛び出す。けれども、長い意見らしい意見は話したことがない。たとえ、人数が少なくとも、一言もしゃべらない時もある。気まぐれでこんなおかしな状態を作るのではない。無理してしゃべらないでもない。あんなに陽気にふるまっているのだから、さぞかしおしゃべりなことであろうと考えるであろう。

しかし、実情は今まで述べた程度でしかない。何が原因か。なじみにくいからか。何故、うちとけないのか。

一つや、二つの理由は分っているが、省かしていただく。とんでもない結びとなってしまうして。



山羊分泌液の血液型学的研究

昭和三五年優秀卒論賞

佐藤理一

〔諸言〕

血液型と型的物質に関する研究は、現在育種面では乳牛の乳量あるいは乳脂率、鶏の育成率ならびに産卵能力との関係等、いわゆる、血液型と経済能力との関係について論議され、さらに家畜の登録面においては、親子鑑定にその血液型が応用されるに至っている。一方家畜の繁殖面においては、人工授精技術の発達にともない、授精卵移植の技術も実験的に確立された現在、これらをより適格に行うために血液型をさらに細分する必要があるように思われる。

山羊については、血液型ならびにその分泌液中の型的物質に関する研究成績は今日まで二、三報告されている。そのうち山羊分泌液中の型的物質に関する研究は人の血液型物質の検索のみ終始しているように思われる。そこで筆者は山羊血液型を細分し、あわせ

て山羊血液型物質の分泌液中への分泌状況に関する研究の一環としてまず、G₁・G₂型物質の唾液および乳液中への分泌状況について検索した結果、若干の成績をえたので、ここに報告する。

〔成績〕

〔Table 1〕 抗血清の作成方法

| 抗血清 | 免疫血清 | 免疫動物 | 吸着血球 |
|---------------------|-------------------|------|-------------------|
| Anti-G ₁ | 山羊 G ₁ | 家 兎 | 山羊 G ₂ |
| Anti-G ₂ | 山羊 G ₂ | 家 兎 | 山羊 G ₁ |

〔Table 2〕 山羊血液型の判定 (G₁, G₂ 型の出現頻度)

| 血液型 | G ₁ 型 | G ₂ 型 | G ₁ G ₂ 型 | O 型 | 合計 |
|---------|------------------|------------------|---------------------------------|-----|-----|
| 頭 数 | 71 | 8 | 4 | 1 | 84 |
| 百分率 (%) | 84.5 | 9.5 | 4.8 | 1.2 | 100 |

〔Table 3〕 山羊唾液によるAnti-G₁・Anti-G₂ 凝集素の吸収試験

| Blood Type | No. | Name | Sex | Anti-G (X5) | Anti-G ₂ (X5) | Type |
|-------------------------------|-----|---------|-----|----------------|--------------------------|--|
| G ₁ | 1 | ホーネン | ♂ | ++ ++ ++ ++ ++ | ++ ++ ++ ++ ++ | SG ₁ -G ₂ ⁻ |
| | 10 | 4S-G-4 | ♀ | ± ↓ + ++ ++ | ++ ++ ++ ++ ++ | SG ₁ +G ₂ ⁻ |
| G ₂ | 6 | SNS-544 | ♂ | ↓ ↓ + + + | - - + ++ ++ | SG ₁ +G ₂ ⁺ |
| | 30 | 4GSホ-16 | ♂ | ++ ++ ++ ++ ++ | ++ ++ ++ ++ ++ | SG-G ₂ ⁻ |
| G ₁ G ₂ | 20 | 4GS-52 | ♀ | ++ ++ ++ ++ ++ | ++ ++ ++ ++ ++ | SG ₁ -G ₂ ⁻ |
| | 26 | 4GSホ-32 | ♂ | ↓ + + + + | ++ ++ ++ ++ ++ | SG ₁ +G ₂ ⁻ |
| | 58 | 2GS-8 | ♀ | ± ↓ + ++ ++ | - - ± + + | SG ₁ +G ₂ ⁺ |
| O | 62 | 3GS-41 | ♂ | ± + + ++ ++ | ++ ++ ++ ++ ++ | SG ₁ +G ₂ ⁻ |

〔Table 4〕 唾液における各型の出現頻度

| Type | G ₁ | | | G ₂ | | | G ₁ G ₂ | | | O | | | Total | |
|--|----------------|--------|----------------------|----------------|--------|----------------------|-------------------------------|--------|-------------------------------------|----|--------|--------|-------|------|
| | 頭数 | 全百分率の% | G ₁ 百分率の% | 頭数 | 全百分率の% | G ₂ 百分率の% | 頭数 | 全百分率の% | G ₁ G ₂ 百分率の% | 頭数 | 全百分率の% | O百分率の% | 頭数 | 百分率 |
| SG ₁ +G ₂ ⁻ | 45 | 53.6 | 63.4 | — | — | — | 1 | 1.2 | 25.0 | 1 | 1.2 | 100 | 47 | 56.0 |
| SG ₁ -G ₂ ⁺ | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — |
| SG ₁ +G ₂ ⁺ | — | — | — | 1 | 1.2 | 12.5 | 1 | 1.2 | 25.0 | — | — | — | 2 | 2.4 |
| SG ₁ -G ₂ ⁻ | 26 | 30.5 | 36.6 | 7 | 8.6 | 87.5 | 2 | 2.4 | 50.0 | — | — | — | 35 | 41.6 |
| Total | 71 | 84.5 | 100 | 8 | 9.5 | 100 | 4 | 4.8 | 100 | 1 | 1.2 | 100 | 84 | 100 |

〔Table 7〕 唾液と乳液との組合せによる G₁ 及び G₂ 型的物質の出現頻度

| Type | G ₁ | | | G ₁ G ₂ | | | total | |
|---|----------------|-----------|-------------------------|-------------------------------|-----------|--|-------|------|
| | 頭数 | 全百分の率 (%) | G ₁ 百分の率 (%) | 頭数 | 全百分の率 (%) | G ₁ G ₂ 百分の率 (%) | 頭数 | 百分率 |
| SG ₁ +G ₂ -MG ₁ -G ₂ ⁻ | 3 | 12.0 | 12.5 | — | — | — | 3 | 12.0 |
| SG ₁ +G ₂ +MG ₁ -G ₂ ⁻ | — | — | — | — | — | — | — | — |
| SG ₁ +G ₂ +MG ₁ +G ₂ ⁻ | — | — | — | — | — | — | — | — |
| SG ₁ +G ₂ +MG ₁ +G ₂ ⁺ | — | — | — | 1 | 4.0 | 100 | 1 | 4.0 |
| SG ₁ -G ₂ -MG ₁ -G ₂ ⁻ | 4 | 16.0 | 16.7 | — | — | — | 4 | 16.0 |
| SG ₁ +G ₂ -MG ₁ +G ₂ ⁺ | — | — | — | — | — | — | — | — |
| SG ₁ +G ₂ +MG ₁ -G ₂ ⁺ | — | — | — | — | — | — | — | — |
| SG ₁ -G ₂ +MG ₁ -G ₂ ⁻ | — | — | — | — | — | — | — | — |
| SG ₁ -G ₂ +MG ₁ +G ₂ ⁻ | — | — | — | — | — | — | — | — |
| SG ₁ -G ₂ -MG ₁ +G ₂ ⁻ | 11 | 44.0 | 45.8 | — | — | — | 11 | 44 |
| SG ₁ -G ₂ -MG ₁ +G ₂ ⁺ | — | — | — | — | — | — | — | — |
| SG ₁ +G ₂ -MG ₁ +G ₂ ⁻ | 6 | 24.0 | 25.0 | — | — | — | 6 | 24.0 |
| SG ₁ -G ₂ -MG ₁ -G ₂ ⁺ | — | — | — | — | — | — | — | — |
| SG ₁ +G ₂ -MG ₁ -G ₂ ⁺ | — | — | — | — | — | — | — | — |
| SG ₁ -G ₂ +MG ₁ -G ₂ ⁺ | — | — | — | — | — | — | — | — |
| Total | 24 | 94.0 | 100 | 1 | 4.0 | 100 | 25 | 100 |

〔Table 5〕 山羊乳液における Anti-G₁ Anti-G₂ 凝集素の吸収試験

| Blood Type | No. | Name | AntiG ₁ (X3) | Anti-G ₂ (X3) | Type |
|-------------------------------|-----|-------|-------------------------|--------------------------|--|
| G ₁ | 77 | 28-23 | ++ ++ ++ ++ ++ | ++ ++ ++ ++ ++ | MG ₁ -G ₂ ⁻ |
| | 78 | 28-19 | - ± ± ± + | ++ ++ ++ ++ ++ | MG ₁ +G ₂ ⁻ |
| G ₁ G ₂ | 58 | 2GS-8 | ± ↓ + ++ ++ | ↓ + ++ ++ ++ | MG ₁ +G ₂ ⁺ |

〔Table 6〕 乳液における各型の出現頻度

| Type | G ₁ | | | | G ₂ | | | | G ₁ G ₂ | |
|--|----------------|------------|--------------------------|------------------------|----------------|------------|--------------------------|------------------------|-------------------------------|------|
| | 頭数 | 全体の百分率 (%) | G ₁ 中の百分率 (%) | G ₁ 百分率 (%) | 頭数 | 全体の百分率 (%) | G ₂ 中の百分率 (%) | G ₂ 百分率 (%) | 頭数 | 百分率 |
| MG ₁ +G ₂ ⁻ | 17 | 68.0 | 70.8 | — | — | — | — | — | 17 | 68.0 |
| MG ₁ -G ₂ ⁺ | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — |
| MG ₁ +G ₂ ⁺ | — | — | — | 1 | 4.0 | 100 | — | — | 1 | 4.0 |
| MG ₁ -G ₂ ⁻ | 7 | 28.0 | 29.2 | — | — | — | — | — | 7 | 28.0 |
| Total | 24 | 96.0 | 100 | 1 | 4.0 | 100 | — | — | 25 | 100 |

〔まとめ〕

実験成績を要約すれば、次の通りである。
(表参照)

- 一、本実験に使用した山羊血液型の出現率は表二の通りである。
- 二、山羊唾液中にはG₁G₂型的物質を分泌しているもの、G₁型的物質のみ分泌しているものおよびG₁G₂型的物質を共に分泌していないものがあり、このことからG₂型的物質のみを分泌しているものも存在するであろう事が考えられる。
- 三、山羊乳液についても唾液と同様なことが考えられる。

四、しかして、山羊唾液において分泌型のものは乳液でも分泌液であり、またそれと反対に山羊唾液中において非分泌型のもは、乳液でも非分泌型であるとは必ずしも言い難い。このことから一応その血球と唾液、あるいは乳液等の分泌液間の抗原構造の違いが当然存在するのであろうことが考えられる。

五、唾液におけるG₁G₂型的物質の分泌について、その出現頻度は表四の通りであった。

六、また乳液におけるG₁G₂型的物質の分泌について、その出現頻度は表六の通りであった。

七、さらに唾液および乳液中における各型質の分泌状況による各型の組合せの出現頻度は表七の通りであった。

終りに本論文の作成にあたって御指導下さった農学博士鈴木正三教授、ならびに渡辺誠喜助手に対し、深甚な感謝の意を表わすると共に貴重な資料を御提供下さった農林省畜産試験場家畜部、群馬県種畜場関係各位また、貴重な時間に写真撮影を願った田中一栄講師にまた、研究室員諸兄に、心より御礼申し上げます。(文責、高山)

(なお詳細については、家畜育種研究室鈴木教授宛、紹介下さい——編集委員会)

全日本獣医畜産学生連盟規約

われわれ畜友会役員は、前役員と同様に全日本獣医畜産学生連盟に加入、非加入かを討議しているが、いまだその結論が出ない状態である。

その主な理由は、われわれ役員自身がこの会をよく理解することができず、またいろいろの問題を含んでおり、さらにこの会が実際的な行動にうつっていない現在では、役員会として明確な判断を下しえない状態である。

活動綱領

ここにその活動綱領と規約を明示し会員諸君に十分理解していただいた上で、結論を出したいと思っている。

- 一、組織活動の強化
 - A 各大学研究室との交流
 - B 国内関係諸団体との連絡
 - C 交換教授の実現
 - D 討論研究集会の開催
- 二、獣医畜産諸問題に関する国内国外情勢の分析
- 三、学生生活の充実化
 - A 教育課程の検討
 - B 休暇利用の検討
 - C 厚生問題

第二章 機関

第五条 本連盟に次の機関を置く

第一節 総会

一、総会 一、中央執行委員会

第六条 総会は本連盟の最高決議機関であり、本連盟している団体の構成員をもって構成する

第七条 総会は毎年一回開催し中央執行委員長が招集する

第八条 臨時総会は次の場合中央執行委員長が招集する

- 一、中央執行委員会が要求するとき
- 二、加盟団体の三分の一以上要求するとき

第九条

一、総会は加盟団体過半数の出席をもって成立する。但し日大は獣医と畜産学科で議決権は二票とする。

二、議決権は各加盟団体一票とし決議は出席団体の過半数をもって成立し同数同数のときは議長これを決定す

第十条 議長は総会でもって選出する 副議長二名及び書記二名は議長指名する

第十二条 総会は次の事項を決定しなければならない

- 一、基本方針並びに活動方針
- 二、予算及び決算の承認
- 三、規約改正並びに役員改選

第十二条 総会の期日及び議決は十日前に各加盟団体に通知する

第二節

第十三条 中央執行委員会は、本連盟を代表する最高執行機であり

- 四、現職獣医師との交流
- 五、対外宣伝
- 六、国際関係諸団体との交流
- 七、機関紙の発行
- 八、その他必要なる事業

規約

第一章 総則

第一条 本連盟は全日本獣医畜産学生連盟と称し本部を日本獣医畜産大学に置く

第二条 本連盟はその趣旨に賛同する全国の獣医畜産関係大学々生諸団体を以って構成する

第三条 本連盟は獣医畜産学に志を同じくする者が相携えて學術の向上と学生生活の発展向上を計ると共に獣医畜産界の発展に寄与することを目的とする。

第四条 本連盟は第三条の目的を遂行するために次の活動を行なう

- 一、第三条の目的に基き全国活動を行う
- 二、獣医畜産の諸問題に対する国内外情勢分析
- 一、学生生活の充実化
- 四、関係諸団体との交流
- 五、各種學術文化事業
- 六、機関紙その他の印刷物の発行
- 七、その他必要なる事業

委員長はこれを招集する。

第十四条 中央執行委員長並びに委員は総会に於いて決定し任期は一年とする。

第十五条 中央執行委員会はその人数の過半数をもって成立し決議は出席人数の過半数で成立する。但し可否同数のときは議長がこれを決定する。

第十六条 緊急重要決議事項のある場合は代議員を召集し合同会議に於いて決議する。決議方法は中央執行委員会に準ずる。

代議員は各加盟団体より比例代表別によって選出する二百名以下一名、五百名まで二名、五百以上三名

第十七条 中央執行委員の任務は次の通りとする。

一、総会に於いて決議された事項を執行し本連盟の全ての活動を統轄する。

二、当面の活動方針を決定する

三、委員に欠員が生じた場合これを補充する

第十八条 中央執行委員会は十三名をもって構成し、この中に次の役員を置き委員長がこれを任命する。

一、副委員長二名 安蔵(日大) 山中(日獣大)

二、中央事務局局長一名 夏目(麻布)

三、学術文化部長 金子(農工大)

四、厚生部長一名 棚野(日大)

五、組織情宣部長一名 坂本(農工大)

六、財務部長 鬼丸(日獣大)

七、委員五名 吉田(麻布) 本間(日獣大) 有江、福田、内藤、(日大)

第十九条 一、委員長は本連盟の最高責任者で連盟を代表し業務を統轄する

二、副委員長は委員長を補佐し委員長事故あるときは代行する

三、中央事務局局長は本連盟全ての事務を司る

四、学術文化部長は関係諸団体との連絡を計り学術文化の向上学生活の充実を計る

五、厚生部長は勉学環境と厚生を増進を計る

六、組織情宣部長は組織の強化拡充を計る

七、財務部長は会費の徴収と財務に当る

第三章 義務

第二十条 本連盟に加盟する団体は次の事項を守らねばならない

一、本連盟の各機関に代表を送ること

二、規約を守り目的を達成するために諸活動を行うこと

三、連盟運営のために会費を納入すること

第四章 加盟及び脱退

第二十一条 本連盟に加盟しようとする団体は本連盟の定める申入書に記入提出し総会に於いて承認を得なければならない

第二十二条 本連盟に加盟する団体が規約に重大なる違反をした場合には戒告、権利停止、除名その他の処置をとる、但し処置は総会にて決定する

第五章 財務

第二十三条 本連盟の財務は会費、補助金、寄附金、雑収入をもつてまかなう

第二十四条 会費は学生一人につき一〇〇円とし各单位で本部に納入する

第二十五条 会計年度は(六月一日)より翌年の(五月三十一日)とする。

第二十六条 監事は総会に於いて二名選出する。田島(麻布)、横山(日大)

第六章 附則

第二十七条 本連盟に学識並びに経験者より若干名の世話相談役を置く

第二十八条 規約改正は総会に於いて三分の二以上の同意を要する

第二十九条 この規約は昭和三十六年四月二十九日より施行する

東京農業大学畜学科

「畜友会」規定

昭和三十六年十一月二十一日一部改正

第一章 総則

第一条 本会は東京農業大学畜友会と称する。

第二条 本会は東京農業大学在学学生、教職員、および卒業生をもって、相互の親睦をはかり、本学の発展に寄与することを目的とする。

第三条 本会の事務所は、東京農業大学畜産学科本部におく。

第二章 会員

第四条 本会の会員は左記の三種をもって組織する。

一、正会員 二、特別会員 三、名誉会員

正会員は東京農業大学畜産学科在校生、特別会員東京農業大学畜産科卒業生、並びに教職員。名誉会員は役員委嘱により承認を得たもの。

第五条 会員が本会の業務執行妨害あるいは名誉を失せる行為をした時は総会の議決により除名する。

第三章 役員及び機関

第六条 本会は左記の役員をおく。

一、委員長一名 副委員長二名 書記二名 会計一名

会計補佐一名 渉外二名 企画二名 クラス委員八名 二、監査員四名

第七条 本会は顧問をおき、畜産学科長ならびに畜産学科主事が此の任にあたる。

第八条 委員長、副委員長、書記、会計、渉外、企画は正会員の中より総会において計十一名選出する。

委員は各学年二名、監査委員は各学年一名づつ選出し、欠員が生じた場合、速やかに補充しなければならない。

役員の任期は原則として一年とする。

第九条 総会は正会員により構成され、本会の最高決議機関とする。

第十条 総会は正会員の三分の一以上により成立する。

第十一条 定期総会は、年一回十一月に召集する。

第十二条 臨時総会は、左記に該当した場合一カ月以内に召集しなければならない。

一、正会員の四分の一以上の同意を得て、開催目的及び召集理由を記載し委員長に提出あるとき。

二、役員は三分の二以上が必要と認められたとき。

第十三条 総会の開催は五日前に公示しなければならない。

第十四条 総会に於ける議長は、総会においてその都度互選する。必要に応じて議長は副議長を指名する。

第十五条 総会の議決は、出席者の過半数によって議決され、可否同数のときは、議長の決するところによる。

第十六条 総会の過半数により、役員の不信任を可決できる。

第十七条 第六条第一項に定められた役員は本会の最高執行機関たる委員会を構成し、この召集は委員長が行なう。

第十八条 本会の事業年度は十二月一日より翌年十一月末日迄とする。但し会計年度は十一月一日より翌年十月末日までとする。

第十九条 本会は左記の業務を行なう。
一、会員親睦会
二、講習会及び研究発表会
三、見学調査
四、機関紙の発行
五、その他第二条に附帯する業務

第二十条 会費は年間五百円とする。その納入は四ヶ年分一換し、入学金と同時に大学会計窓口を通じて納入のこと。但し転入者は転入年次より正規の手続きを経て一括納入

する。

第二十一条 本会の運営は会員の納入する会費で運営する。但し第十九条の業務執行にあたり臨時徴収する場合もある。寄附行為は認める。

第二十二条 納入金の払い戻しは行なわない。

第二十三条 決算報告は十月末日までに作成し公示する。承認は定期総会において行なう。

第二十四条 本会の業務を円滑、正常化する為、監査委員をおく。監査委員は、前条の目的達成の為年度末に会計監査をおこなう。監査は監査委員が必要と認めれば随時できる。

第二十五条 監査委員は第六条一項の役員に兼任は出来ない。

第二十六条 監査委員は第六条一項の役員に兼任は出来ない。

第二十七条 本会規定解釈の疑義は委員会において、最終的解釈する。

第二十八条 本会規定の改正及び追加は総会においておこなう。

第二十九条 本規定は昭和三十五年六月二十九日より施行する。



畜友会便り

書記局

昭和三十七年度事業計画

- 一月 卒業生を送る会(記念品贈呈)
(講演と映画の会)
- 二月 畜友会便り発行
(但し必要と認める時)
- 四月 ふじみの発行
新人生オリエンテーション
- 五月 新人生歓迎運動会
畜友会便り発行
名簿作成(正会員のみ)
- 六月 見学旅行
- 九月 講演と映画の会
畜友会便り発行
- 十月 他大学との親睦討論会
- 十一月 講演会
定期総会

*三十六年十一月二十一日畜友会規定に基いて畜友会総会が行なわれ、涉外二名、企画二名が追加決定され、新役員は次の通り決定しました。

役員

| | |
|------|-----------|
| 委員長 | 笠原秀成(三年) |
| 副委員長 | 佐々木靖(三年) |
| 会計 | 高山昭雄(四年) |
| 会計補佐 | 印牧美佐生(三年) |
| 書記 | 岡田稔(二年) |
| 企画 | 荒井敢太(三年) |
| 企画 | 矢崎宗一(二年) |
| 企画 | 庄司清和(三年) |
| 企画 | 岡田宏俊(二年) |
| 企画 | 倉光秀善(三年) |
| 企画 | 佐川輝男(二年) |
| 企画 | 白石幸司(四年) |
| 企画 | 原徹(四年) |
| 企画 | 森川正孝(三年) |
| 企画 | 泉政徳(三年) |
| 企画 | 近藤陽(二年) |
| 企画 | 幡生徹太郎(二年) |
| 企画 | 木口靖夫(四年) |
| 企画 | 西原弘人(三年) |
| 企画 | 中村伸郎(二年) |
| 企画 | 平林忠(科長) |
| 企画 | 鈴木正三(主事) |

*十二月二十六日文部省の学位審査会において本学畜産学科助教鬼原新之函氏は農学博士号を授与された。研究テーマは「鶏肉肉漿蛋白の貯蔵加工中に於ける性質の変化に関する研究一です」。

*名誉会員は役員会、顧問と厳選の結果次の三名に決定しました。
相馬清策 先生
西川哲三郎 先生
伊藤帷吉 先生

(矢崎記)



昭和三十六年度卒業論文一覽表

| 氏名 | 論文題目 | 指導者 | 備考 |
|-------|--|-----|-----|
| 千葉 宏夫 | 乳牛に於ける代謝試験・乳牛の消化試験 | 海塩 | |
| 江沢 齊 | 多頭飼育における自然飼料の経済性 | 砂川 | |
| 藤岡 昌芳 | 各種ソーセージの保存性に関する研究 | 鬼原 | |
| 船越 等 | 混雑による飼料養分の増収について | 海塩 | |
| 後藤 公彦 | 燻製鶏貯蔵時の変化に関する研究 | 鬼原 | |
| 萩原 保 | テオシントの飼料的価値に関する研究 | 海塩 | 科長賞 |
| 原田 武彦 | 鶏の孵化並に育雛に及ぼす静電気の影響 | 鈴木 | |
| 淋 和生 | 酸乳に関する研究 | 鬼原 | |
| 人見 隆 | 鶏の品種間に於ける血清学的差異について(特に単冠白色レグホン種と地鶏の場合について) | 鈴木 | |
| 井 孝義 | 鶏の血液型とその遺伝について | 鈴木 | |
| 池田昭次郎 | 卵黄に対する飼料中の色素の影響 | 海塩 | |
| 池田 孝温 | ホルスタイン種系牛尿における人血液型物質について | 鈴木 | |
| 今井 武 | 乳牛に於ける代謝試験 | 海塩 | |
| 井伊 直次 | 山羊乳ヨーグルト製造中の酸度及アミノ酸について | 鬼原 | |
| 石井 年郎 | 鶏の血液型と産卵能力との関係について | 鈴木 | |
| 石井 安文 | 乳牛多頭飼育に於ける経済性とその限界 | 砂川 | |
| 石川 晶道 | 防腐剤が肉の加工上に及ぼす影響について | 鬼原 | |
| 勝連紘一郎 | 山羊と家兎における母子間の抗体の移行について | 鈴木 | 学長賞 |
| 川上 勇辰 | UVK(豆容)の飼料価値に関する研究 | 石原 | |
| 菊地 一夫 | テオシントの飼料的価値について | 海塩 | |
| 木村 忠道 | 豚房の変環による発育試験 | 海塩 | |
| 小林真十郎 | ルーズハウジングシステムの実態とその考察 | 海塩 | |
| 熊川 敏 | 混雑による飼料養分の増収について | 海塩 | |
| 黒板 明弘 | 実験的牛乳防腐に関する研究 | 鬼原 | |
| 桑原 純二 | 乳牛(ジャージー種系)尿中における人血液型物質について | 鈴木 | |
| 前田 勝 | 幼豚及び仔豚の発育にIron-Dextran筋肉注射の及ぼす影響 | 海塩 | |
| 益田 昇 | 山羊乳の細菌に関する研究 | 鬼原 | |
| 箕 功 | 牧場計画と投下資本 | 砂川 | |
| 三井 均 | 畜産の専門化に於ける協業化の問題 | 砂川 | |
| 三浦 順久 | 自給飼料と市販飼料の経済性 | 砂川 | |
| 三浦 利昭 | シュガービートトップの飼料的価値に関する研究 附南方産植物の飼料成分調査 | 海塩 | |
| 宮城 正至 | 人工授精による家鶏精子の輸卵管分布 | 鈴木 | |
| 宮下 勇夫 | 家兎被膜類給支による鶏産卵年の変化 | 平山 | |
| 紋谷 和宏 | 市販飲用乳の脂肪及び固型物の含量について | 平山 | |
| 内藤 稔彦 | 鶏の砂礫給与に於ける消化器管に及ぼす影響 | 鈴木 | |
| 西田 修 | シュガービートトップの飼料価値に関する研究 附南方産植物の飼料成分調査 | 海塩 | |
| 野中 和征 | 鶏の飼料と卵質の関係 | 海塩 | |
| 抜井 邦春 | 家兎受精卵の体外保存 | 田中 | |
| 寺岡 和彦 | バン養鶏の経済検定について | 砂川 | |
| 鶴田 厚 | 養鶏に関する研究 産卵鶏に対するイモヌカサイレージ給与試験 | 海塩 | |
| 渡慶次憲恒 | 琉球に於ける畜産の実態調査 | 平山 | |
| 徳田 征志 | 和牛の肉生産と飼料との関係 | 海塩 | |
| 内間 俊博 | 綿羊の夏季に於ける精液性状について | 平山 | |
| 上田 貫一 | 家兎妊娠時における血液性状について | 平山 | |
| 氏原 信夫 | 鶏卵貯蔵中の変化に関する研究 | 鬼原 | |
| 吉田 順治 | 鶏の飲水量と気温との関係 | 鈴木 | |
| 吉田 武憲 | 綿羊血球と他の動物血球間との共通性抗原について | 鈴木 | |
| 吉田 享 | 肉の加熱による変化について | 鬼原 | |
| 吉田 嘉夫 | テオシントの飼料的価値に関する研究 | 海塩 | |
| 石黒 俊夫 | 液燻法による燻製鶏製造に関する研究 | 鬼原 | |
| 大城亀次郎 | 自由採食(粉餌)制限食(ねりえ)が肉豚の発育に及ぼす影響 | 砂川 | |
| 駒沢 昭男 | 鶏卵の孵化と季節との関係 | 海塩 | |
| 平井 政武 | 集団酪農に於ける新技術構造 | 砂川 | |
| 及川 勤 | 牛精液中に於ける人血液型物質について | 鈴木 | |
| 福田 和士 | 鶏肉の品種間各部位の化学的成分の相違について | 鬼原 | |
| 兼城 賢正 | 沖繩における養豚農家(チエスタホワイ種)の普及状況とその経済性 | 砂川 | |
| 名倉 信行 | 家兎染色体に関する研究 | 田中 | |
| 林 泰弘 | 乳牛におけるP・Caの代謝 | 海塩 | |

| | | | |
|-------|---------------------------------------|----|-----|
| 緒方 孝男 | 血清学的並びに電気泳動的方法から見たWL種とトカラ鶏との関係 | 鈴木 | |
| 小川 敬介 | 相反交雑ブローラー鶏の差異について | 鈴木 | |
| 大岩 徹 | 鶏卵の貯蔵に関する研究 | 鬼原 | |
| 大川 健次 | チーズの風味と化学的組成分との関係 | 鬼原 | 三浦賞 |
| 大城 忠吉 | 乳牛の泌乳中に於けるP・Ca代謝に関する研究 | 海塩 | |
| 大谷 忠 | 鶏肉の防腐に関する研究 | 鬼原 | |
| 大浦 健吾 | 自給養鶏の限界とその経済性 | 砂川 | |
| 三枝 勇夫 | 乳の炭水化物に関する研究 | 鬼原 | |
| 佐野 信夫 | 高エナジーに於ける蛋白質含量の多寡が産卵率及び卵重等に及ぼす影響について | 海塩 | |
| 桜井 寿一 | 卵黄に対する飼料中の色素の影響 | 海塩 | |
| 佐野 元重 | Enzymeの利用に関する研究 | 海塩 | |
| 淡谷 留雄 | 鶏筋肉のグリコゲンに関する研究 | 鬼原 | |
| 篠崎 法嗣 | ミューガービートトップの飼料的価値に関する研究 附南方産植物の飼料成分調査 | 海塩 | |
| 塩田 利次 | 富島島の酪農構造特に当地農業と酪農 | 砂川 | |
| 鈴木 長次 | 鶏貯蔵脂肪の不飽和脂肪酸について | 鬼原 | |
| 田原 孝二 | ストリウム可溶性の仔豚の発育に及ぼす効果 | 石原 | |
| 高橋 誠 | 鶏の精液に関する調査、主として保存について | 平山 | |
| 武井 弘道 | 育雛用蛋白質としての油粕類の価値 | 海塩 | |
| 武内 正明 | 高エナジーに於ける蛋白質含量の多寡が産卵率及び卵重等に及ぼす影響に就いて | 海塩 | |

編集後記

※十二月末に第一回編集会議が開かれた時の
意気盛んなことからしてさぞすばらしい編
集がなされるものと期待していたが、校庭
の桜も散り始める頃になるとあの意気、
忘却の彼方に消え、出来ばえはこの通りな
り。

※今回はアンケート、特集などと特色を出そ
うと苦心しましたが、ただ集めただけで終
らず、今後その結果が反映されますよう
に！

※物価増計画も順調に進み、お影をもちま
して印刷代も値上り、お影をもちまして会
計君も音上り！

※場所：四月十四日（午後三時）昼過ぎから
青空をみせた天候なのに連日の校正で二人
のごつい男がいらいらしている。

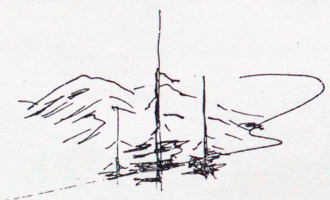
T君「今日は土曜日だぜ」
Z君「ためいき」

T君「……………」がっくりとくる

※兎にも角にもこれだけのものが出来まし
た。終ってみれば反省の余地のあまりにも
多いこと。それでも正月休み、学年末考
査、春休みを返上しての活躍に免じて、今
後一層のおひきたてを、隅から隅までズイ
ーッと御願ひ申し奉ります——。

※男は度胸、女は愛嬌、坊主はお経で、ウグ
イスはホーホケキョとは良く言ったもの
で、糞畜産家志望のスカンピンの学生が寄
り集まってクソ度胸で作りました今春
のニューモードでございます。

※例年のことながら学生諸兄の原稿集めに苦
労する。どうも作文に自信がないのだが、
書いてみればまんざらでもないのだが、
三号にはその名をぜひ「ふじみの」に



昭和三十七年四月十六日 印刷
昭和三十七年四月二十日 発行

ふじみの 第二号

編集責任者 佐々木 靖
発行者 笠原 秀成
発行所 東京都世田谷区世田谷四の四〇〇
東京農業大学畜友会
TEL (四三) 五一七五(呼)

印刷所 共立印刷株式会社

— 持続性デキストラン鉄製剤 —

トーンキー

注射液

— 幼豚の鉄分欠乏による
發育不良の除去 —



- 1回の注射筋肉内で速効，吸収利用が速く，持続性
であります。
- 従来の経日及び注射用鉄剤よりも副作用が少ない。
- 鉄欠乏性貧血による發育不良を確実に防止するので
増大量が大になります。

〔包装・価格〕 2cc × 10 アンプル ￥ 1,000

藤本医療産業株式会社畜産部 東京都千代田区神田西福田町 4
 藤田製薬株式会社 東京都品川区上大崎 2～5 6 6

遂に完成したフラゾリドンの水溶化
 仔豚の下痢にぜひ御使い下さい



豚用ストヂウム可溶散

50g 500円
 (フラゾリドン・キノホルム・ビタミン複合剤) 300g 2,800円
 600g 5,400円

仔豚の發育促進及び下痢(特に離乳期)の予防と治療

各家畜(犬猫・緬山羊・牛馬)の下剤にも使用出来る

製造発売元 田村製薬株式会社 東京都板橋区長崎町二ノ六